

2 平成 29 年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 青少年の体験活動の充実
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 地域全体で子どもを育む活動の充実
- オ 家庭教育支援の充実

生涯学習課

地域産業と学校の連携による地域人財育成事業 3,982 千円

〔事業目的及び概要〕

若年層の県内定着・回帰のため、教員、児童生徒及び保護者の地域産業に対する理解を深めることにより、郷土に愛着と誇りを持ち、積極的に地域に関わろうとする人財を育てる事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 地域産業と学校の連携・協働による地域人財の育成(各地区実行委員会への委託により実施)

ア 各地区連携会議の開催(6 地区各 1 回)

県内 6 地区において、高校教職員、企業、PTA、商工団体等を対象とする連携会議を開催し、地域産業と学校の相互理解を深め、キャリア教育の在り方や連携・協働の進め方について情報交換を行った。※各地区の県高校長協会主催の「就職促進懇談会」と併催。

《東青地区》

○日時：8/23(水) 13:30～15:30 ○場所：アップルパレス青森 ○参加者数：90 名

○内容：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり理事長米田大吉氏をアドバイザーとして、講話とグループ協議を実施

《西北地区》

○日時：2/6(火) 13:30～15:30 ○場所：五所川原市民学習センター ○参加者数：48 名

○内容：NPO 法人青森県就職支援チーム代表理事森岩樹氏をアドバイザーとして、講話とグループ協議を実施

《中南地区》

○日時：8/25(金) 14:00～16:30 ○場所：弘前プラザホテル ○参加者数：73 名

○内容：米田大吉氏をアドバイザーとして、講話とグループ協議を実施

《上北地区》

○日時：2/16(金) 14:00～16:00 ○場所：十和田富士屋ホテル ○参加者数：49 名

○内容：米田大吉氏をアドバイザーとして、講話とグループ協議を実施

《下北地区》

○日時：7/6(木) 15:00～19:00 ○場所：むつグランドホテル ○参加者数：52 名

○内容：森岩樹氏をアドバイザーとして、講話とグループ協議を実施

《三八地区》

○日時：8/29(火) 13:00～15:30 ○場所：八戸プラザホテル ○参加者数：97 名

○内容：米田大吉氏をアドバイザーとして、講話とグループ協議を実施

イ 各地区教育支援見本市の開催(6 地区各 1 回)

教職員、学校支援ボランティア等を対象として、企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)の具体的な取組をパネルや資料展示により紹介した。

※ 総合社会教育センター主催の「学校と地域の協働実践セミナー」と連携して実施。

地区	日時	場所	参加者数	出展企業数
下北	6/29(木)16:00～17:00	下北文化会館	71 名	17 社
東青	8/31(木)16:00～17:00	県総合社会教育センター	96 名	24 社
上北	11/1(水)16:00～17:00	青森県立三沢航空科学館	64 名	24 社

中南	11/8(水)16:00～17:00	弘前市総合学習センター	53名	28社
西北	11/22(水)16:00～17:00	五所川原市情報学習センター	62名	18社
三八	1/26(金)13:30～15:30	八戸市総合学習センター	141名	18社

(2) 地域産業と学校の連携・協働に向けた啓発

ア 地域産業と学校の連携推進フォーラムの開催

学校と地域産業の相互理解のもとでキャリア教育の充実・発展を図り、学校と地域や企業等の連携・協働による人材育成を進めるため、青森県高等学校PTA連合会(進路指導研修会)と共催により、フォーラムを開催した。

○日時：10/17(火) 13:00～15:00 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者：242名

○対象：学校教職員、PTA関係者、企業・事業所・NPO等の職員、県及び市町村職員等

○内容

①「あおもりキャリア教育応援企業表彰」表彰式

受賞企業・事業所等数：15社・団体

社会福祉法人三徳会 十和田めぐみ保育園 (十和田市)

社会福祉法人印光会 幼保連携型認定こども園 もりた保育園 (つがる市)

あおもり街てく (青森市)

イオンリテール株式会社 イオン青森店 (青森市)

社会福祉法人御幸会 アリス保育園 (黒石市)

河野商店 (むつ市)

社会福祉法人柏友会 特別養護老人ホーム桑寿園 (つがる市)

ケーキ屋タックン (むつ市)

イオンモール株式会社 イオンモールつがる柏 (つがる市)

株式会社わんわん倶楽部あおもり (青森市)

Atelier N (三沢市)

有限会社ヒーローネット (三沢市)

有限会社小野印刷所 (弘前市)

企業組合JT&Associates 英語事業部 (青森市)

社会福祉法人報徳会 (黒石市)

②講演 「地元を支える人材を育てる新戦略～高校生インターンシップの活用術～」

講師：一般社団法人アスバシ教育基金代表理事、NPO法人アスクネット創業者・顧問

毛受 芳高

③「あおもりキャリア教育応援企業表彰」受賞企業による学校支援パネル展示交流 (提案！我が社の教育支援)

イ 教育支援プラットフォーム関係者のコーディネート能力を高める研修講座の開催

(NPO法人まなびのたねネットワークへの委託により実施)

学校と地域産業の連携・協働を促進する役割を担う教育支援活動推進員や学校支援ボランティア等を対象として、キャリア教育に関する知識を深めコーディネート能力を高めることをねらいとした研修講座を、県内3地区で開催した。(※平成28年度、他の3地区で開催済み)

講師：NPO法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢みゆき

内容：子どもたちに必要なキャリア教育についての講話やグループワークを実施

《西北地区》

○日時：11/22(水)13:00～16:00 ○場所：五所川原市民学習情報センター ○参加者数：32名

《下北地区》

○日時：11/20(月)13:00～16:00 ○場所：むつ合同庁舎 ○参加者数：19名

《三八地区》

○日時：11/21(火)13:00～16:00 ○場所：八戸市福祉公民館 ○参加者数：20名

[成果と課題]

6地区の実行委員会による「連携会議」や「教育支援見本市」の開催を通して、キャリア教育推進に関わる教職員、保護者、企業・NPO等の相互理解がさらに深まった。また、「地域産業と学校の連携



推進フォーラム」を、青森県高等学校PTA連合会と連携して開催したことにより、保護者や教職員の参加が増え、地域からのキャリア教育の支援に関する理解が促進された。

今後は、学校でキャリア教育がより効果的に行われるよう、引き続き6地区実行委員会によるプラットフォームの仕組みを維持していく必要がある。また、各プラットフォームにおいて企業と学校の橋渡し役となる教育支援活動推進員のコーディネート能力を一層高めるとともに、地域学校協働活動として位置づけていく必要がある。

子どもの読書活動推進事業 2,879千円

〔事業目的及び概要〕

「青森県子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、家庭・地域・学校が連携して、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実や普及啓発を図る取組を展開する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 乳幼児期からの読み聞かせ活動の推進

ア 「親子ふれあい読書アドバイザー」の新規養成及び読み聞かせ実践者のスキルアップ

青森県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、親子ふれあい読書アドバイザーを新たに14名養成、登録した。(累計登録者数：444名)

《東青地区》

○日時：12/9(土) 10:00～15:30 ○場所：今別町中央公民館 ○参加者数：14名

○内容

〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉

「読み聞かせの基本、在り方について」 講師：西村恵美子(青森県読書団体連絡協議会会長)

〈ワークショップ〉

グループに分かれて自己紹介や活動報告等 講師：西村恵美子(青森県読書団体連絡協議会会長)

《西北地区》

○日時：10/25(水) 10:00～15:00 ○場所：鯉ヶ沢町中央公民館 ○参加者数：41名

○内容

〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉

「もっと本を好きになろう」 講師：今井 千都子(津軽地区読書推進運動連絡会会長)

〈読み聞かせの実演〉

大型紙芝居「光信公の鬼退治」 実演：読み聞かせグループ「ピース」「さざなみ」

〈活動紹介〉「学校図書館が機能するために市立図書館ができること」

講師：須藤 紀子(五所川原市立図書館)

「板柳町 子どもの読書推進活動」 講師：野宮 睦子(板柳町民図書館)

《中南地区》

○日時：10/12(木) 10:00～15:30 ○場所：平川市生涯学習センター ○参加者数：43名

○内容

〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉スキルアップ編「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」

講師：前田 敏子(青森県読書団体連絡協議会副会長)

〈講義・実演〉「子どもの発達過程に見合った選書」～図書館職員から見た景色～

講師：齋藤 佳那(弘前図書館分室業務責任者)

《上北地区》

○日時：10/21(土) 10:00～15:00 ○場所：十和田市民文化センター ○参加者数：56名

○内容

〈親子ふれあい読書アドバイザー研修〉保護者会などでお話しする内容や方法など

講師：語りの会「こま草」

〈読み聞かせ研修会〉ストーリーテリングの実践

講師：西村 恵美子(青森県読書団体連絡協議会会長)

《下北地区》

○日時：1/21(日) 11:00～15:00 ○場所：むつ市立図書館 ○参加者数：11名

○内容

(親子ふれあい読書アドバイザー研修) アドバイザーとしての活動や心構えについて
 講師：越膳 昌子(読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしの木」)
 (読み聞かせ研修会) 読み聞かせの基礎や選書、プログラムの作り方
 講師：越膳 昌子(読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしの木」)

《三八地区》

○日時：11/16(木) 10:00～15:30 ○場所：八戸市根城公民館 ○参加者数：77名

○内容

(親子ふれあい読書アドバイザー研修) スキルアップ編「実践のコツと選書」
 講師：西村 恵美子(青森県読書団体連絡協議会会長)
 (ボイストレーニングと実演) 読み聞かせと朗読
 講師：大竹 辰也(特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ代表理事)

イ 地域における読み聞かせボランティア活動の促進

小学校で開催される教員や保護者を対象とした読み聞かせに関する研修会に「親子ふれあい読書アドバイザー」を派遣した。(6校、計7名)

学校名	実施日	派遣 アドバイザー	内 容	参加 者数
青森市立 筒井南小学校	7/21 (金)	三浦 恵美	教員を対象に、読み聞かせの実演、読み聞かせの仕方や留意点、選書の仕方など	22名
西目屋村立 西目屋小学校	1/12 (金)	高嶋 敬子	教員を対象に、読み聞かせの実演、読み聞かせの留意点、選書の仕方など	10名
三沢市立 三川目小学校	6/28 (水)	前田 敏子	参観日に「いきいき健康会議～読書で心を育てよう～」を行い、読みきかせの実演、「読書の大切さ」「読書好きの子どもを育てる方法」について講話	80名
野辺地町立 馬門小学校	7/5 (水)	岩本 ヤヨエ	参観日のPTA家庭教育講演会として、読み聞かせの実演、「親子ふれあい読書の大切さ」「読書の大切さ」について講話	75名
風間浦村立 風間浦小学校	11/17 (金)	越膳 昌子 佐藤 静子	教職員を対象に、読みきかせの実演、読み聞かせの留意点、選書の仕方など	26名
八戸市立 南郷小学校	7/6 (木)	藤田 吉穂	参観日のPTA教育講演会として、読み聞かせの実演、読み聞かせの大切さや留意点など	223名

ウ 啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の活用促進

○乳幼児期からの家庭での読み聞かせの大切さに関する啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」を、市町村が行うブックスタート事業、幼稚園・保育所等で開催される保護者研修会、読み聞かせ研修会等にテキストとして提供。

提供数：のべ5,369冊 (内訳) ブックスタート事業等への提供：10市町村 3,780冊
 保護者研修会等への提供：13か所(10市町村) 1,106冊
 小学校への提供(小学校へのアドバイザー派遣)：483冊

○研修会等の主催者の希望に応じ、「親子ふれあい読書アドバイザー」を講師として紹介。

照会数：のべ7人

○啓発小冊子改訂版(第6版)の作成。(平成30年度に発行)

(2) 読書離れへの対応

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象として、仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品を掲載した「優秀作品集」を80,000部、周知ポスターを350部作成し、中学校、高等学校、公立図書館等に配布した。

○募集期間：7/3(月)～9/1(金)

○応募数：2,782点(中学生の部：34校756点、高校生の部：20校2,026点)

○優秀作品受賞者一覧

〈中学生の部〉

最優秀賞	八戸市立白山台中学校 2年 西塚 未瑠 「羊と鋼の森」 (宮下奈都/著)
優 秀 賞	青森市立荒川中学校 3年 三上 彩花 「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」 (坪田信貴/著)
	八戸市立白山台中学校 2年 本田 愛奈 「かがみの孤城」 (辻村深月/著)
	八戸市立白銀中学校 1年 川野輪 和心 「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」 (向野幾世/著)
	五戸町立五戸中学校 1年 頭久保 京子 「流星ワゴン」 (重松清/著)
	外ヶ浜町立平館中学校 3年 木村 菜々美 「ピーティ(Petey)」 (ベン・マイケルセン/著)

〈高校生の部〉

最優秀賞	青森明の星高等学校 2年 田中 惟真 「五重塔」 (幸田露伴/著)
優 秀 賞	県立青森高等学校 2年 工藤 千夏 「アンネの日記」 (アンネ・フランク/著)
	県立青森高等学校 2年 吉町 文子 「クライマーズ・ハイ」 (横山秀夫/著)
	県立青森高等学校 1年 佐藤 陽南 「『今、ここ』から考える社会学」 (好井裕明/著)
	県立青森高等学校 1年 仲江川 大夢 「名のないシヤ」 (山田悠介/著)
	県立青森高等学校 1年 工藤 さくら 「たとえ明日、世界が減びても今日、僕はリンゴの木を植える」 (瀧森古都/著)

(3) 子どもの読書活動推進に係る普及・啓発

子どもの読書習慣の形成と豊かな心の育成を図る機運を高めるため、子どもの読書活動推進の関係者及び一般県民を対象として、子どもの読書活動推進大会を県内2か所で開催した。

《むつ大会》

○日時：7/28(金) 13:00～16:00 ○場所：下北文化会館 ○参加者数：102名

※下北国語教育研究会と連携して開催

○内容

講演「みずぶさんのまなざし ～本を読む喜び～」

講師 童謡詩人、金子みずぶ記念館館長 矢崎 節夫

事例研究、講義・演習

テーマ：「学校・家庭・地域の連携による子どもの読書活動の推進」

コーディネーター 東奥保育・福祉専門学院保育科

講師 秋田 敏博

事例発表者 大間町立奥戸小学校 校長 濱田 俊一

板柳町教育委員会生涯学習課主任主査(板柳町民図書館担当) 野宮 睦子

紙しばい倶楽部とわだ 橋場 妙子

その他、講演に関する参考図書、講師の著書販売、発表者の事例紹介等のコーナーを設置

《青森大会》

○日時：11/9(木) 13:00～16:00 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：176名

○内容

講演「わたしの絵本と自然とこども」 講師 絵本作家 いわむら かずお

事例研究、講義・演習

テーマ「子どもの自主的な読書活動の推進に向けて」～ビブリオバトル、ビブリオトークの実践を通して～

講師 八戸学院大学短期大学部 学長補佐・ライフデザイン学科長 茂木 典子

ビブリオバトル(本の紹介)の実演

県立弘前高等学校 1年 岡部 佑紀、八戸聖ウルスラ学院高等学校 2年 栗林 志音

[成果と課題]

あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』に応募した学校の教員からは、広く読書の大切さを呼びかける良い機会となり読書指導にもつながったという声が聞かれた。また、優秀作品選考審査会の審査員からは、この事業の意図が伝わり良い作品が多かったという意見とともに、



作品の応募方法や事前審査等についても意見をいただいております、今後、検討が必要である。

子どもの読書活動推進大会の青森大会では、高校生によるビブリオバトルの実演や参加者による本の紹介についての模擬体験等を行ったが、中・高校生の読書意欲を高めるための手段の一つとして認識してもらえた。

今後も引き続き、「青森県子ども読書推進計画(第三次)」に掲げる課題に対応するため、中学生・高校生を対象とした読書活動推進の取組と中学生・高校生の読書活動推進に係る関係者への啓発について、特に充実させていく必要がある。

いじめ防止キャンペーン推進事業 7,503千円

〔事業目的及び概要〕

いじめ防止の取組は、学校だけでなく、家庭や地域、関係機関が連携して取り組むことが重要であり、いかなるいじめも許さないという人権尊重の精神を育む体制を整備することが必要である。このため、地域からいじめ防止の意識啓発キャンペーンを幅広く展開し、学校におけるいじめ防止に向けた取組を支える事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) いじめ防止CM原作コンクール

高校生を対象として、いじめ防止を呼びかけるテレビCMの原作(絵コンテ)を募集し、優秀作品6本を選定、表彰した。

○募集期間：4/24(月)～5/24(水)

○応募数：45作品(10校)

○優秀賞受賞作品

県立弘前中央高等学校2年 山田 由佳 「『考動』しよう」 ※テレビCMの原作に採用

県立大湊高等学校川内校舎1年 二本柳 茉歩

「あなたの一言で救われる人がいる～大事な人の笑顔を取り戻そう～」

県立五所川原農林高等学校3年 高橋 なぎさ 「愛と勇気を」

県立弘前工業高等学校1年 泉田 剛 「あなたかもしれない。」

県立弘前工業高等学校1年 三浦 結衣子 「Can you stop that?」

県立三沢商業高等学校放送部 「救いの一言」

(2) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀作品7本を選定、表彰した。

○募集期間：6/8(木)～9/6(水)

○応募数：7,904点(小学校5,726点、中学校1,936点、高等学校240点、一般2点)

○優秀作品

優秀賞	クラスの輪 一人かけたら ただの線 どうしたの 声がけできる やさしい子 「大丈夫?」かけるゆうきは ぼくにある 深呼吸 心の言葉 声に出せ 助きたい 僕もいっしょに 強くなる 一言で 変える勇気と 変わる未来 助けての 心のブザーに 耳向けて	青森市立佃中学校3年 五所川原市立東峰小学校3年 弘前市立千年小学校5年 県立弘前実業高等学校2年 六戸町立六戸小学校4年 むつ市立大湊中学校2年 八戸市立小中野小学校6年	山谷 悠月 勝浦 乃愛 石澤広之助 三浦 未夢 田中夏海斗 真勢 孝哉 久保 百音
審査員特別賞	「やめようよ」 一瞬で変わる 友の未来	八戸市立是川中学校1年	田端 杏

(3) コンクール優秀作品を活用したテレビCMの制作・放送

ア 平成28年度制作「いじめ防止標語テレビCM」を県内民放3局で放送。(4/5～4/14、5/8～5/19)

イ いじめ防止CM原作コンクール優秀作品(「『考動』しよう」)を原案とし、CM制作。

県内民放3局で放送。(8/16～9/12)

ウ いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作。県内民放3局で放送。(1/11～2/6)

〔成果と課題〕

いじめ防止CM原作及び標語コンクールでは、児童生徒がCM原作や標語をつくることを通して、いじめ防止に向けた認識を深めることができた。

また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげる

ことができた。

今後は、家庭や地域が連携し、いじめ防止等に取り組む必要があることから、県PTA連合会等と連携し、いかなるいじめも許さないという人権教育の精神を育む機会を促進していく必要がある。

障害者青年学級開設 968 千円

【事業目的及び概要】

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容		
青森第二養護学校	5	16	130	運動会参加、ボウリング、スポーツ体験、会報の発行		
青森若葉養護学校	3	11	54	運動会参加、親睦旅行、スポーツ体験、閉級式		
青森第一高等養護学校	4	11	100	運動会参加、ヨガ、スポーツ体験、めいせい祭参加		
青森第二高等養護学校	4	18	310	同窓会総会(ダンス体験交流)、学校祭参加、地域ブロック活動(研修会、情報交換会、ニュースポーツ交流)、同窓生の集い(ボウリング)		
県立盲学校	4	11	20	運動会参加、点字ブロック理解啓発活動、県盲祭参加、視覚障害教育の軌跡理解		
浪岡養護学校	6	9	170	運動会参加、成人を祝う会、浪養祭参加、DVD鑑賞教室		
弘前第一養護学校	5	20	116	運動会参加、スポーツ体験、総会・親睦会、親睦旅行、学習発表会鑑賞		
弘前第二養護学校	4	12	57	運動会参加、合同ねぶた祭り参加、ふれあいコンサート、学習発表会鑑賞		
八戸第一養護学校	3	13	115	レクリエーション、夏を楽しむ会(成人を祝う会)、学習発表会見学		
八戸第二養護学校	1	6	129	成人を祝う会(レクリエーション、高校生ボランティアとの交流会)		
八戸盲学校	5	14	70	スポーツ体験(フロアバレーボール)、芸術教室(合唱)、学習発表会の参観		
森田養護学校	3	12	85	スポーツ体験(ダンス)、森養祭への参加、バス遠足(公共機関の利用)		
黒石養護学校	3	13	146	開級式、映画鑑賞、軽スポーツ(ボッチャ)余暇の提供		
七戸養護学校	3	13	186	同窓会総会、成人を祝う会、同窓会交流会		
むつ養護学校	5	15	188	運動会参加、スポーツレクリエーション、福祉に関する情報等の共有、ふれあいボウリング大会		
合計	のべ回数	58 回	のべ時間	194 時間	参加者数合計	1,876 名

(2) スポーツ体験交流

参加対象：青年学級生と児童生徒や地域住民 等

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/15(土)	弘前第一養護学校	25 名	ボッチャ教室
7/29(土)	青森第二高等養護学校	68 名	ニュースポーツ教室(カローリングほか)
9/24(日)	黒石養護学校	42 名	フライングディスク・ボッチャ教室
10/ 7(土)	七戸養護学校	35 名	ボッチャ教室

実施日	開催場所	参加者数	内容
10/14(土)	青森第一高等養護学校	15名	ボッチャ教室
11/3(金)	青森若葉養護学校	13名	ニュースポーツ教室(ボッチャほか)
12/9(土)	青森第二養護学校	42名	ニュースポーツ教室(カローリングほか)
合計	開催回数 7回	参加者数合計	240名

[成果と課題]

卒業生が、青年学級事業を通して、仕事のことや卒業後の生活について発表する場となっている。特別支援学校が卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業はとても重要である。スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生においては、主体的に運動することができるため、とてもよい機会となっている。今後も多くの卒業生が楽しく学べる事業を展開し、自立と社会参加を促せるよう取り組む必要がある。

障害者家庭教育学級開設 677千円

[事業目的及び概要]

障害のある児童生徒の父母等保護者の家庭教育支援を目的として、特別支援学校に家庭教育を開設する事業である。

[事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
青森第一養護学校	5	12	68	パン作り教室、陶芸教室、保護者施設見学会、進路講話(卒業後の生活、年齢に応じた栄養摂取)
青森第二養護学校	4	12	51	こぎん刺し教室、災害から命を守る、テーブルマナー教室、先輩保護者からの講話
青森若葉養護学校	4	10	32	企業見学、マスコット作り、合同研修会、コサージュ作り
青森第一高等養護学校	6	17	142	エコラフト教室、運動会参加、トールペイント教室、文化祭参加、調理教室、あおもり親学プログラム
青森第二高等養護学校	4	8	115	花植え、環境整備、家政の作業体験、調理、二高養祭の参加
県立盲学校	6	16	55	運動会参加、通学路清掃活動、安全教室聴講、統合50周年記念式典、点字ブロック理解啓発活動、県盲祭協力、進路講演会聴講
青森聾学校	7	13	64	運動会グラウンド整備、昼食交流、家族レクリエーション、青聾祭模擬店への協力、お菓子作り、東青地区合同研修会
浪岡養護学校	6	15	103	美化活動、運動会参加、研修旅行、学校祭参加、研修会(AED)、調理活動
弘前第一養護学校	4	20	190	運動会参加、ねぶた制作体験、障害者就労施設見学、講演会
弘前第二養護学校	6	17	109	運動会参加、学校花壇整備、弘前地区合同研修会参加、藍染め体験、県特P連津軽地区合同研修会参加、弘二養祭鑑賞、施設見学会
弘前聾学校	9	16	138	食育に関する講話、給食試食会、親子レクリエーション、弘前地区合同研修会、なかまの集い、手話講座、弘聾模擬店体験、進路指導懇話会
八戸第一養護学校	4	16	48	父母学習会(歯・ハンドマッサージ学習・給食試食会)、バス研修会、特P連二北三八地区合同研修会、二北三八地区合同研修会
八戸第二養護学校	4	9	92	給食試食会、性教育講座、スマホ・ケータイ安全教室、学校見学会(八戸高等支援学校)

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
八戸盲学校	5	10	80	運動会装飾作り、親子学習会、体験学習(料理教室)、親子レクリエーション(ミニ運動会)
八戸聾学校	4	11	58	運動会装飾作り、運動会参加、自然体験活動、学習発表会装飾・清掃
森田養護学校	3	11	64	歯についての研修、NHK青森放送局見学・こぎん刺し体験、お菓子作り体験
黒石養護学校	4	9	46	花の寄せ植え、弘前地区合同研修会参加、コサージュ作り、黒養祭「お楽しみコーナー」の運営
七戸養護学校	5	13	116	園芸活動、進路講話、学校見学(八戸高等支援学校)、調理活動、二北三八地区研修会
むつ養護学校	6	17	356	スポーツレクリエーション、園芸教室、施設見学、スマートフォンに関する安全研修会、二北三八地区合同研修会参加
八戸高等支援学校	3	10	138	開級式、性教育学習会、進路学習会
合計	のべ回数 99 回		のべ時間 262 時間	参加者数合計 2,065 名

[成果と課題]

家庭教育学級は、同じ立場の保護者同士が様々な活動を通して、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、自己の悩みに対する先輩のアドバイスを受ける好機となっている。課題としては、生徒の居住地が県全体であり、参加する保護者が交通事情などから固定化しているなどの状況がある。今後は、より多くの保護者に参加してもらえるような企画・内容等を検討し工夫していく必要がある。

地域で学校を支える仕組みづくり推進事業 4,594 千円

[事業目的及び概要]

学校に求められる役割が増大する中で、地域で学校を支える仕組みづくりの推進を目的として、学校支援活動を展開する市町村への支援を行うほか、学校支援関係者の資質向上と実践事例の普及啓発を図る研修会(フォーラム)を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 地域で学校を支える仕組みづくり推進委員会

行政関係者、学校関係者、PTA関係者、学校支援事業関係者、学識経験者等で構成し、地域で学校を支援する仕組みづくりを推進するための諸課題や方策等について協議するとともに、フォーラムの内容検討、事業実施後の検証・評価等を行った。

○第1回推進委員会 日時：11/14(火)13:00～15:30 場所：県総合社会教育センター

○第2回推進委員会 日時：2/27(火)13:30～15:30 場所：県総合社会教育センター

○委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	松本 大	弘前大学教育学部 准教授	会長
2	齋藤 厚	弘前大学教育学部 教職キャリア支援コーディネーター	副会長
3	櫛引 健	弘前市立文京小学校 校長	
4	諏訪 俊幸	十和田市立大深内中学校 校長	
5	外崎 浩司	青森県PTA連合会 会長	
6	工藤 知久子	青森市浦町地区学校支援本部 コーディネーター	
7	川岸 祥子	五戸町学校支援地域本部 コーディネーター	
8	葛西 彩子	五所川原市読み聞かせボランティア おはなしの会「ほっぺた」代表	
9	竹園 正敏	青森県教育支援プラットフォーム下北地区実行委員会 実行委員長	
10	玉川 玲子	おいらせ町子育てサポートセンター 家庭教育インストラクター	
11	成田 寿美	中泊町教育委員会社会教育課 係長兼社会教育主事	
12	三角 浩司	八戸市教育委員会教育指導課 副参事	

(2) 地域で学校を支える仕組みづくりフォーラムの開催

事業関係者の資質向上と、市町村の実践事例等の普及啓発を図るためにフォーラムを開催した。

○日時：11/22(水) 13:30～16:00

○場所：県総合社会教育センター 大研修室

○対象：学校支援センター関係者、家庭教育支援関係者、キャリア教育関係者、市町村教育委員会関係者、教職員 など

○参加者：106名

○内容

パネルディスカッション テーマ「今後の学校と地域における協働体制の構築に向けて」

コーディネーター：弘前大学教育学部 准教授 松本 大

パネリスト(事例発表)：

『これまでの学校支援活動と地域学校協働活動への発展に向けて』

板柳町立板柳東小学校 教頭 舘山 信一

板柳町地域学校協働本部 コーディネーター 北島 千春

『八戸市地域密着型教育について』

八戸市教育委員会教育指導課 副参事 三角 浩司

八戸市立白山台小学校 地域密着型教育コーディネーター 川村 由紀子

『地域社会で子どもたちを育てる「学校おたすけ隊」の取組』

秋田県東成瀬村立東成瀬小学校 教頭 篠木 誠子

秋田県東成瀬村学校支援地域本部 コーディネーター 高橋 かおる

(3) 地域で学校を支える仕組みづくり推進事業費補助

地域で学校を支える仕組みづくり推進事業を実施する市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。

実施市町村：8市町(学校支援本部数 31本部 32小学校 11中学校)

今別町 五所川原市 中泊町 板柳町 平川市 三沢市 横浜町 五戸町

【成果と課題】

推進委員会では、地域コーディネーターや地域学校協働活動推進に向けての方策等について活発に意見交換がなされ、コーディネーターの発掘や役割、学校支援活動における小・中学校の目的の違い等を確認することができた。

フォーラムでは、県内の2事例と県外の1事例の発表をもとにパネルディスカッションを行い、ほとんどの参加者が「満足のいく研修である」との評価であった。参加者は、コーディネーター配置の重要性や地域学校協働活動本部構築のための具体的な方策を学ぶことができ、地域学校協働活動の推進への意識啓発を図ることができた。

今後は、地域学校協働活動の更なる充実に取り組むための施策について検討していく必要がある。

農山漁村でとことん「学び・交流・体験」事業 5,346千円

【事業目的及び概要】

農山漁村における地域コミュニティの活性化や郷土に対する子どもたちの理解を深めることを目的として、土曜日等(日曜日、祝日、長期休業日を含む。)の学習活動等への学生サポーター派遣を行うほか、県内の子どもたちが農山漁村に宿泊し、豊かな地域資源を活用した交流体験活動等を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 農山漁村における学生サポーターによる土曜学習活性化事業

研修を受け学生サポーターとして登録された県内の大学生を、農山漁村における土曜日等の学習活動に派遣し、学習活動等の支援を行う。

○対象市町村

- ・放課後子ども教室推進事業に取り組み、土曜日等に派遣を希望する市町村
- ・土曜学習推進事業に取り組み、土曜日等に派遣を希望する市町村
- ・土曜日等に学生サポーターの派遣を希望し、学習支援の実施を希望する市町村

○派遣期間 平成29年7月～平成30年2月

○派遣状況等 11市町村12箇所 31回派遣

○活動内容 学習支援、スポーツ活動支援、体験活動支援

○学生サポーター登録数：36名

〔 青森明の星短期大学 4名 東北女子大学 15名 八戸学院大学 5名
 青森中央学院大学 3名 弘前大学 7名 八戸工業大学 2名 〕

○学生サポーター派遣数：延べ57名（実数28名）

○派遣先一覧

	期日	市町村	派遣先	活動内容等	派遣人数	参加児童数
1	7/ 8(土)	七戸町	七戸南公民館	ポンポン船を作ろう	3名	18名
2	8/ 9(水)	むつ市	大湊小学校	神福焼き絵付け体験	2名	17名
3	8/26(土)	七戸町	七戸南公民館	南極の空の微生物	3名	19名
4	9/ 2(土)	中泊町	武田小学校	ミニ木箱づくり	1名	23名
5	9/16(土)	鱒ヶ沢町	西海小学校	ペットボトルロケット飛ばし世界大会 in あじがさわ	1名	16名
6	9/16(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	1名	7名
7	9/16(土)	平川市	盛美園 他	平川市のみりよく発見 ～名所たんけん～	1名	23名
8	9/23(土)	階上町	民俗資料収集館	縄文土器の野焼き体験等	1名	11名
9	9/30(土)	中泊町	中里小学校 図工室	町民文化祭展示作品づくり	3名	42名
10	9/30(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	1名	16名
11	10/14(土)	七戸町	七戸中央公民館	黄砂に付着する微生物	3名	7名
12	10/21(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	1名	15名
13	10/21(土)	おいらせ町	おいらせ町民交流センター	生涯学習フェスティバルへの参加サポート	2名	28名
14	10/22(日)	おいらせ町	おいらせ町民交流センター	生涯学習フェスティバルへの参加サポート	1名	15名
15	10/28(土)	平川市	平川市生涯学習センター	遊びリンピック	1名	22名
16	10/28(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	1名	6名
17	11/18(土)	今別町	今別町中央公民館	かぼちゃホットケーキづくり、読み聞かせ	2名	12名
18	11/18(土)	むつ市	大湊小学校	ドリル等の学習支援等	2名	12名
19	11/25(土)	三沢市	織笠児童館	2館交流会、館内外の遊び、体験活動	1名	24名
20	11/25(土)	平川市	平川市生涯学習センター	レクリエーション	3名	24名
21	12/ 9(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	2名	11名
22	12/ 9(土)	七戸町	七戸南公民館	飛ぶものを作ろう	3名	7名
23	12/16(土)	平川市	平川市文化センター	オリジナル年賀状づくり	3名	22名
24	12/23(土)	鱒ヶ沢町	町山村開発センター	門松づくり&餅つき大会	3名	33名
25	1/20(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	2名	8名
26	1/27(土)	佐井村	児童交流センター「ぼぼらす」	工作教室、学生考案プログラム	2名	17名
27	2/10(土)	三沢市	しおさい児童館	学習支援、館内外の遊び、体験活動	1名	7名

	期日	市町村	派遣先	活動内容等	派遣人数	参加児童数
28	2/17(土)	横浜町	児童センター	プレーパーク体験会	1名	25名
29	2/17(土)	佐井村	津軽海峡文化館 「アルサス」	おやつづくり	1名	5名
30	2/24(土)	平川市	平川市文化センター	思い出アルバムづくり	4名	25名
31	2/24(土)	三沢市	織笠児童館	学習支援、館内外の遊び、 体験活動	1名	22名
計					57名	539名

(2) 農山漁村体験留学支援事業「県内交流編」

郷土あおもりに関する理解を深めるため、県内の小・中学生が夏季休業等を利用して農山漁村に宿泊し、豊かな地域資源を活用した体験交流活動を実施した。

《上北地区》(参加者：西北地区の小学生)

○期日：7/22(土)～23(日) ○宿泊施設：小川原湖青年の家

○参加者：西北地区の小学生と保護者・指導者 22名

○内容：トマト収穫体験、七戸ピザづくり、三沢市子ども会との交流会 他

《三八地区》(参加者：東青地区の小学生)

○期日：7/24(月)～25(火) ○宿泊施設：種差少年自然の家

○参加者：東青地区の小学生と保護者 11名

○内容：ブルーベリー収穫体験、ナイトハイク、種差小・金浜小合同種差海岸ウォークと交流会 他

《中南地区》(参加者：下北地区の小学生)

○期日：8/6(日)～7(月) ○宿泊施設：岩木青少年スポーツセンター

○参加者：下北地区の小学生と保護者 9名

○内容：りんご園農業体験、子どもねふた参加(交流)、薫ない体験、田んぼアート見学 他



(3) 農山漁村体験留学支援事業「津軽海峡交流圏編」

北海道新幹線を活用し、道南地方の自然・文化・歴史にふれるとともに、農山漁村に宿泊体験留学を行うことで、津軽海峡交流圏の理解を深める。

○期日：8/1(火)～3(木)

○参加者：県内小学校 4～6年生 計 20名

○宿泊場所：北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

○活動概要：道南地区の縄文遺跡見学、城岱牧場見学、野外炊事、カヌー体験、ご当地食事交流会(道南地区の児童との交流活動)、キャンプファイヤー 他

【成果と課題】

農山漁村における学生サポーターによる土曜学習活性化事業については、派遣した学生サポーターによる学習支援や体験活動の支援により、意欲的かつ根気強い学習や活発な活動につながっている。また、派遣先の市町村やスタッフにとっては、学生サポーターの子どもたちへの接し方が参考となったり、学生の前で見せるいつもと違う一面が見られたりするなどよい刺激となっており、地域における活動の活性化につながっている。

農山漁村体験留学支援事業では、県内及び道南地区の自分の住んでいない地域に行き、地域資源を活用した活動や地元の小学生との交流等を行うことにより、郷土あおもりを改めて見つめる機会となり、ほとんどの参加者や保護者から満足度の高い評価が得られた。

今後は、同様の活動が市町村において実施されるようにするため、実施方法や活動内容の工夫などの検討を促す必要がある。

あおもりの未来を変える 0歳からの家庭教育応援事業 2,236千円

【事業目的及び概要】

乳幼児期からの家庭教育を推進することを目的に、「乳幼児期からの家庭教育の在り方」について調査研究を行い、市町村の子育て支援策や母子健康手帳への取り込みを図るとともに、普及啓発のための番組をテレビで放映するほか、家庭教育をサポートする祖父母世代を対象とした研修会を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 青森県における「乳幼児期からの家庭教育支援」普及定着事業

肥満傾向児出現率やう歯被患率の高さなど本県特有の課題を整理し、乳幼児期からの家庭教育支援について調査研究を行い、市町村や関係部局と連携しながら子育て支援策に反映をさせていく。

ア 青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究

青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究委員会を設置し、主に4～6歳の子どもを持つ保護者を対象とした調査研究を行い、幼児期からの生活習慣について正しい知識や情報を提供するウェブサイト「教えて！！乳幼児からの生活習慣」(平成28年度開設)に新しい情報を追加した。また、保護者への普及活動を行うに当たり、ウェブサイトの内容をよりわかりやすく伝えるため、市町村が実施する3歳児健康診査等において配布するリーフレットを30,000部作成した。

○青森県乳幼児期からの家庭教育支援調査研究委員会 委員一覧

No.	氏名	所属等	備考
1	中村 由美子	文京学院大学 教授	委員長
2	相坂 譲	青森県教育庁 スポーツ健康課長	
3	嶋谷 嘉英	青森県健康福祉部 がん・生活習慣病対策課長	
4	伊藤 正章	青森県健康福祉部 こどもみらい課長	
5	五十嵐 茂幸	黒石市健康福祉部 健康福祉部長	
6	田中 強	階上町立赤保内小学校 校長	
7	梶沢 幸苗	中居林こども園 理事長	
8	沼田 久美	NPO法人子育て応援隊 ココネット・あおもり代表	
9	鹿内 葵	NPO法人スポネット弘前 代表	

○会議開催：3回(7/27(木)、10/23(月)、12/27(水))

イ 家庭教育支援テレビ番組の放映(主管：県総合社会教育センター)

今まで届かなかった家庭へのアプローチと、社会全体で家庭を支える機運を醸成するため、家庭教育支援コンテンツ事業と連動して番組を制作し、テレビで放映した。

○制作番組

- ① 地域で支える子どもの体力づくり
- ② はじめよう！生活習慣の改善～肥満・虫歯予防～
- ③ 働くママが抱える小一の壁
- ④ 子どもたちの健康を守るイクジイ・イクバア

○ 放映回数：8回

○ 放映日：本放送 10/11、10/15、12/3、1/21、再放送 10/29、11/26、12/24、1/28

○ 放映時間：日曜日 17:00～17:15 (RAB 青森放送にて放映)

(2) イクジイ、イクバアのためのイマドキの子ども研修会

(青森県地域婦人団体連合会への委託により実施)

乳幼児期からの生活習慣を確立するとともに、肥満傾向児の出現率を抑えることを目的として、家庭教育をサポートする祖父母を対象とし、乳幼児期からの子どもの発達段階に応じた家庭教育の重要性や生活習慣に関する研修会を、県内3か所で開催した。

○内容：講義「子ども達の健康を守る ～イクジイ、イクバアの出番です～」

講師 青森中央学院大学 准教授 高橋 佳子

○参加者数合計：398名

○実施期日、会場、参加者数

《鱒ヶ沢町》	9/4(月)	舞戸公民館	173名
《野辺地町》	10/19(木)	野辺地町中央公民館	125名
《新郷村》	11/14(火)	美郷館	100名

【成果と課題】

青森県における「乳幼児期からの家庭教育支援」普及定着事業で平成29年4月に開設したウェブページのアクセス数は、5,957件(平成30年4月現在)となっている。平成30年度に新たに4～6歳児を対象とした情報を加えたことにより、乳幼児期～就学以前の生活習慣のウェブページやリーフレット、

テレビ番組の放映を通して、乳幼児期からの生活習慣の重要性に対する認識を深めることができた。

また、イクジイ、イクバアのためのイマドキの子ども研修会では、孫等をもつ祖父母に対して、乳幼児期からの子どもの発達段階に応じた家庭教育の重要性を理解する機会となった。

今後は、ウェブページでのエピソードやおもりの親楽プログラム等、県で実施している家庭教育支援事業と連携し、乳幼児期の子を持つ保護者等だけではなく、その子や保護者を支える地域の方にも乳幼児期からの生活習慣の重要性等を理解してもらい、様々な実践や支援をしていく必要がある。

放課後子ども教室推進事業 61,746千円

〔事業目的及び概要〕

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等の取組を実施する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 放課後子ども総合プラン推進委員会

全児童の放課後対策の諸課題について協議するとともに、放課後対策事業の実施方針、安全管理方針、広報活動方針の策定、指導者研修の内容検討や事業実施後の検証・評価等を行った。特に、配慮の必要な子どもへの対応等について意見が交わされた。

○委員一覧

No.	氏名	所属等	備考
1	齋藤 厚	弘前大学教育学部 教職キャリア支援コーディネーター	会長
2	松浦 淳	青森中央短期大学 講師	副会長
3	福田 真実	弘前市立西小学校 教頭	
4	長沢 とも子	青森県PTA連合会 常置委員	
5	千葉 有子	三戸町放課後子ども教室 コーディネーター	
6	坂本 恵子	鶴田町放課後子ども教室 コーディネーター	
7	東 千恵子	むつ市大湊小学校なかよし会 放課後児童支援員	
8	葛西 月美	中泊町中里小学校なかよしクラブ 放課後児童支援員(学童保育支援員)	
9	引敷林 広貴	階上町教育委員会教育課 課長	
10	成田 寿美	中泊町教育委員会社会教育課 係長兼社会教育主事	
11	平舘 雅子	十和田市こども子育て支援課 課長	
12	町田 徳子	青森県発達障害者支援センター 所長	

○ 会議開催：1回 (2/13(火))

(2) 指導者研修

放課後子ども教室関係者と児童クラブ関係者等を対象とした指導員研修を実施した。

ア 放課後子ども総合プランコーディネーター等研修 (主管：県総合社会教育センター)

○参加者数：計 380名

○期日：5/16(火)、5/17(水)

○会場：県総合社会教育センター、七戸中央公民館

○内容：講義・演習「課題を抱える子への接し方～「おもしろ荘」での活動について～」

講師 NPO法人ゆめ・まち・ねっと 代表 渡部 達也

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修 (主管：各教育事務所)

○参加者数：計 1,264名

○期日、会場、内容

東青	前期	【期日】6/13(火) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】174名
		【内容】協議・情報交換及び講演 「子ども理解と学校・保護者との対応」～子どもと過ごす豊かな放課後の時間～ 弘前大学教育学部教職キャリア支援コーディネーター 齋藤 厚

	後期	【期日】9/20(水) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】132名 【内容】講義・実習 「ワクワクドキドキ科学実験工房」～みんなで楽しく科学で遊ぼう～ 県立三沢航空科学館科学実験工房インストラクター 盛田 洋介、浅沼 直樹
西北	前期	【期日】6/9(金) 【会場】つがる市柏ふるさと交流センター 【参加者数】109名 【内容】講義・演習 「イマドキの子ども・保護者について」 弘前大学教育学部教職キャリア支援コーディネーター 齋藤 厚
	後期	【期日】10/4(水) 【会場】つがる市柏ふるさと交流センター 【参加者数】94名 【内容】実技研修 「遊びのマスターから学ぼう！遊び講座」 NPO法人子どもネットワークすてっぷ 代表理事 奈良 陽子
中南	前期	【期日】7/4(火) 【会場】弘前市立中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】72名 【内容】講義・演習 「様々な動きづくりやボール遊び」 リベロスポートクラブ 佐藤 峻 成田 大輔
	後期	【期日】9/19(火) 【会場】弘前市立中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】77名 【内容】講義 「子どもの心と現代社会」 秋田大学大学院理工学研究科 助教 鈴木 翔
上北	前期	【期日】6/22(木) 【会場】七戸町屋内スポーツセンター 【参加者数】132名 【内容】講義・実技研修 「すぐに活用できるレクリエーション～楽しく学んでしっかり実践～」 NPOスポネット弘前 理事長 鹿内 葵
	後期	【期日】10/4(水) 【会場】公立小川原湖青年の家 【参加者数】152名 【内容】講義・演習 「子どもの理解を深めるために」 NPO法人いのちの教育ネットワーク 理事長 長尾 慶子
下北	前期	【期日】6/13(火) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】66名 【内容】講義・実技研修 「簡単な体を動かす遊びのプログラム」 弘前医療福祉大学 非常勤講師 鹿内 葵
	後期	【期日】10/18(水) 【会場】むつ来さまい館 【参加者数】76名 【内容】講義・演習 「子どもの安全を守るために」～災害発生時 あなたならどう対応する～ NPO法人青森県防災士会 理事 相馬 多一郎
三八	前期	【期日】5/23(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】116名 【内容】講演・演習 「保護者や子どもとつながるためのコミュニケーション」 NPO法人いのちの教育ネットワーク 理事長 長尾 慶子
	後期	【期日】10/3(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】64名 【内容】講演・演習 「ものづくりPart2」～簡単にできる 遊べる 工作～ 県立三沢航空科学館 地域連携グループマネージャー 名久井 正廣

(3) 放課後子ども教室推進事業費補助

放課後子ども教室推進事業を実施する市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。

○実施市町村：22市町村(放課後子ども教室数 85教室)

平内町 外ヶ浜町 今別町 深浦町 中泊町 鶴田町 弘前市 平川市 藤崎町

大鰐町 十和田市 おいらせ町 六戸町 横浜町 東北町 むつ市 大間町
風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町 階上町

[成果と課題]

放課後子ども教室は、中核市の青森市と八戸市及び単費で実施している七戸町を含めると 25 市町村 138 教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。

放課後子ども総合プランに関わる研修会には、年間計 1,600 名を超える参加があり、指導員等の資質向上に資する研修となっている。また、市町村からは、研修の継続を期待されている。

放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業 543 千円

[事業目的及び概要]

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちにとってより有意義な土曜日の実現をめざすため、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する取組を支援し、教育新体制等の構築を図る事業である。各市町村において、伝統芸能、様々なスポーツを体験する活動、自然体験学習等、地域の多様な人材を活用した体系的な学習機会が展開された。

[事業内容及び結果]

地域の豊かな社会資源を活用した土曜学習推進事業費補助

土曜学習推進事業を実施する市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。

○実施市町：3 市町 (土曜学習実施箇所数 6 箇所)

今別町 中泊町 弘前市

[成果と課題]

次年度は、放課後子ども教室推進事業費補助において市町村の補助を行っていくとともに、市町村の放課後子ども教室を含めた土曜日等の外部人材を活用した教育活動が充実するよう、普及啓発を図っていく必要がある。

家庭教育支援推進事業 1,243 千円

[事業目的及び概要]

家庭教育はすべての教育の原点であり、家庭を取り巻く環境が変化している中、社会全体で家庭教育を支援することを目的として、今日的な課題に対応する参加型学習プログラムの作成や当該プログラムの進行役(あおもり家庭教育アドバイザー)の養成・派遣等を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) あおもり家庭教育アドバイザーの養成・派遣

今日的課題に対応した家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」を養成し、PTA等の要請に応じて派遣した。

ア あおもり家庭教育アドバイザー養成講座(主管：県総合社会教育センター)

あおもり親学プログラムを効果的に活用して、講座や集会等で学習を進行する「あおもり家庭教育アドバイザー」を養成した。受講生 35 名のうち、11 名が新規にあおもり家庭教育アドバイザーとして登録した。

実施日	会場	内 容
5/26(金)	五所川原市民学習情報センター	【講義】家庭教育支援の現状とあおもり家庭教育アドバイザーの役割 講師 青森県立保健大学 教授 古川 照美 【演習】あおもり親学プログラムを体験してみよう
5/30(火)	五所川原市民学習情報センター	【講義】イライラ・怒りと上手に付き合うためには 講師 アンガーマネジメント青森 代表 津島 弘美 【演習】あおもり親学プログラムを作成してみよう

イ 家庭教育アドバイザーの派遣

地域における家庭教育支援の活性化を図るため、あおもり家庭教育アドバイザーをPTA等の要請に応じて派遣した。

29 年度事業の実績

	実施日	実施機関	研修会等の名称 (参加者数)	学習プログラム	派遣 アドバイザー
1	6/7 (水)	めぐみ子ども園	めぐみ子ども園 子育て研修会 (8名)	「ダメったらだめ！～子ども自我 の芽生え～」 「笑顔のママでいたいのに！～子 育てのイライラとつきあう～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 律子 渋谷 貴子
2	6/13 (火)	むつ市ファミリ ー・サポート・ センター	むつ市ファミリ ー・サポート・セ ンター、まかせて 両方会員研修会 (12名)	「聴くことの大切さ～相手の心に 寄り添って～」 (支援者編)	中川めぐみ
3	6/17 (土)	青い鳥保育園	青い鳥保育園 研 修会 (10名)	「ケンタ君のあくび～子どもの生 活リズム～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 律子 渋谷 貴子
4	6/29 (木)	十和田市教育委 員会	十和田市家庭教育 応援事業 (76名)	「わたしの話、聞いている？～親子の 会話～」 (乳幼児・小学生編)	沼田 久美 秋元 美香子 滝口 小百合
5	6/30 (金)	水元中央小学校	P T A家庭教育講 座 (36名)	「わたしの話、聞いている？～親子の 会話～」 (乳幼児・小学生編)	今 ゆき子 千葉 敦子
6	7/2 (日)	平内町教育委員 会	平内町家庭教育支 援講座 (3名)	「子育ての主役は誰？～祖父母・家 族の役割を考える～」(支援者編)	佐藤 正則
7	7/6 (木)	中泊町立薄市小 学校P T A	薄市小学校P T A 研修会 (26名)	「わが子の自立を願うなら～自分 のことは自分で～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 美穂 松林 恵公子
8	7/11 (火)	青森第一高等養 護学校	青森県立青森第一 高等養護学校 家 庭教育学級・第2 回P T A研修会 (6名)	「思春期の子どもとどう関わる？ ～親子のつながり～」 (中・高校生編)	工藤 清子
9	9/13 (水)	弘前市立文京小 学校	第1回三中学区O Y A G A K U「カ タリ場に集合！」 (6名)	「わが子も大きくなりました！～ 子育てを振り返る～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 貴子 斎藤 多申
10	10/10 (火)	弘前市立文京小 学校	第2回三中学区O Y A G A K U「カ タリ場に集合！」 (4名)	「持たせる？持たせない？ ～ル ールを考える～」 (中・高校生編)	工藤 貴子 斎藤 多申
11	10/11 (水)	青森青年会議所	親学勉強会 (6名)	「わたしの話、聞いている？～親子の 会話～」 (乳幼児・小学生編)	平山 健一
12	10/18 (水)	コープあおもり 五所川原地域子 育て委員会	親楽研修会 (8名)	「わたしの話、聞いている？～親子の 会話～」 (乳幼児・小学生編)	今 ゆき子

	実施日	実施機関	研修会等の名称 (参加者数)	学習プログラム	派遣 アドバイザー
13	11/16 (木)	外ヶ浜町教育委員会	就学児検診を活用した子育て講座 (18名)	「わが子も大きくなりました！～子育てを振り返る～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 清子
14	12/1 (金)	田子町立上郷小学校	家庭教育学級 (24名)	「わが子の自立を願うなら～自分のことは自分で～」 (乳幼児・小学生編)	安ヶ平 敦志
15	12/1 (金)	生活協同組合コープあおもり	あおもり親楽プログラム (12名)	「笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～」 (乳幼児・小学生編)	浜田 祐子
16	12/16 (土)	青い森信用金庫	家庭教育セミナー (11名)	「笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～」 「わたしの話、聞いている？～親子の会話～」 (乳幼児・小学生編)	沼田 久美 秋元 美香子
17	2/17 (金)	おおわに文化幼稚園	あおもり親楽プログラム～乳幼児期(0～6歳)の生活習慣～ (14名)	「休み明けの朝は大変～子どもの生活リズムについて」 (特別編 乳幼児期(0～3歳)の生活習慣)	藤田 俊彦 芳賀 環子
あおもり家庭教育アドバイザー派遣合計回数：17回 同 派遣人数：延べ27名 同 派遣した研修会等の参加者数計：280名					

(2) 研修会の開催

ア 家庭教育支援スキルアップ研修会(主管：県総合社会教育センター)

あおもり家庭教育アドバイザーや家庭教育支援に関わる人たちが、家庭教育の今日的な課題に対する認識を深め、情報を共有することにより、家庭教育支援者としての更なる資質向上とネットワークの構築を図るため、研修会を開催した。

○日時：7/4(火) 10:00～15:40 ○会場：三沢市国際交流センター ○参加者数：23名

○内容

【講演】「プログラムを円滑に進めるコミュニケーションの在り方」

講師 青森県立保健大学 准教授 川内 規会

【青森県の家庭教育支援の状況】「あおもり親楽プログラムの活用について」

【事例紹介】「先輩アドバイザーから学ぶ」

事例発表者 青森市家庭教育サポーター連絡会

家庭教育サポーター 秋元 美香子

【演習】スキルアップ！あおもり親楽プログラム

イ 家庭教育支援普及定着研修会

家庭教育支援活動に関わる人々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援者等のネットワークの構築・強化を図りながら、情報共有を図るため、研修会を開催した。

○日時：1/11(木) 13:00～16:00

○会場：県総合社会教育センター

○参加者数：88名

○内容

【講義・演習】

「何かうまくいかない・・・子どもや親とのコミュニケーションをUPさせるには」

講師：NPO法人RYOMA塾 代表理事 津村 柁広



(3) 家庭教育学習テキスト「あおり親楽プログラム」の作成

あおり家庭教育アドバイザーが活用する家庭教育の学習テキスト「あおり親楽プログラム」の「特別編 2～幼児期（4～6歳）の生活習慣～」を作成した。内容は「あおりの未来を変える 0歳からの家庭教育応援事業」における調査研究委員会の検討内容と関連したものとした。

○あおり親楽プログラム作成委員会の開催：2回(12/27(水)、2/1(木))

○委員一覧

No.	氏名	所属等	備考
1	工藤 貴子	弘前市連合父母と教師の会 副会長	
2	秋田 敏博	県立青森南高等学校 教諭	
3	八柳 角弥	特定非営利活動法人弘前子どもコミュニティ・ピーぷる 常務理事	
4	沼田 久美	NPO法人子育て応援隊ココネットあおり 代表	
5	中村 由美子	文京学院大学 教授	委員長

〔成果と課題〕

今年度新たに、11名があおり家庭教育アドバイザーとして登録し、登録者は計108名となった。ただし、登録者の地域間でのばらつきが見られるため、派遣を行う際、身近なアドバイザー確保が課題となっていることから、今後、登録者の確保に努める必要がある。派遣においては、今年度初めて青森信用金庫が開催した社員研修からの要請があった。今後も企業の家庭教育や子育ての社員研修への派遣件数を増加させる手立てを講じる必要がある。

スキルアップ研修会や普及定着研修会では、アドバイザー同士の連携を図ることができた。特に普及定着研修会において、学校の冬季休業中の開催ということもあり、教員の参加を増やすことができた。次年度以降は、多様な主体とのネットワークの形成を進めていく必要がある。

あおり親楽プログラムの作成については、「あおりの未来を変える0歳からの家庭教育応援事業」と関連させたテキストを作成することができた。来年度は、今まで発行したテキストのエピソードの見直しを行う必要がある。

若者の社会参加促進事業 765千円

〔事業目的及び概要〕

若者の社会参加を促進することを目的に、社会とのつながりへのきっかけを求めている若者の自立支援に向けた自然体験・交流塾を実施するとともに、社会教育施設を拠点に若者と地域、若者同士の出会いやつながりを形成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 自然体験・交流塾

社会とのつながりへのきっかけを求めている若者(16歳～概ね40歳)を対象に、少年自然の家等を活用して、自立に向けた自然体験・交流塾を実施した。

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/1(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：4名

○内容：アイスブレイク、野外炊事、自然林観察会、年輪ストラップづくり 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：8/26(土)～27(日) ○会場：種差少年自然の家、カワヨグリーン牧場、階上岳

○参加者数：5名 ※他に見学者2名

○内容：アイスブレイク、牧場での就労体験(道路の補修、草と枝の処理、機械を使った芝刈り)、レクリエーション、登山、ふりかえり、宿泊体験 他

みんなで自然体験・交流塾

○期日：10/21(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：9名

○内容：アイスブレイク、せんべい焼き、野外炊事、ふりかえりトーク、保護者との面談 他

(2) 若者の拠点づくり支援

公民館等の社会教育施設を会場に、若者(概ね20～40歳代)を対象に、若者と地域、または若者同士の出会いやつながりを形成することを目的とした市町村事業の企画を支援するとともに、実施に係る謝金と旅費を負担した。

市町村	月日	会場	内容	講師	参加者数
おいらせ町	7/29 (土)	おいらせ町立東公民館、百石地区商店街	「百石地区商店街活性化を考える～青年団ができることって何だ!?～」※講師の実践講話と、商店街視察による街の活性化	坂本 崇 (弘前路地裏探偵団団長)	10名
鱒ヶ沢町	8/12 (土)	鱒ヶ沢町舞戸公民館	「僕が東京から青森に来た理由とハタチのこれから」※青森の魅力を伝えながら、若い力によるまちおこしをめざす	下田 翼 (りんご飴マン)	82名
青森市	8/26 (土)	まちぐみラボ、平安閣市民ホールギャラリー	「A-Paradise 現地ワークショップ」※講師との意見交換会を通して、若者団体のまちづくり力の向上を図る	山本 耕一郎 (まちぐみ組長)	7名
三沢市	10/20 (金)	三沢市公会堂	「親子力UP 講座・特別編」目指せ!男子力UP! ㊤料理作戦 ※地元食材を使っの料理体験と参加者同士のコミュニケーションを図る	伏見 憲子 (NPO 日本食育インストラクター)	12名
八戸市	11/10 (金)	sakanaka Village キャンパス	「親子関係が良くなる思春期のストロークとパーソナルスペース」※こどもとの触れ合い方を学びながら、メンバーの結束力アップなどを図る	佐藤 正則 (青森ヘルシー産業代表)	17名
野辺地町	12/12 (火)	野辺地町立図書館	「好きの力で前に進める つるた街プロジェクト」※講師の実践を聴き、世代を超えたコミュニティ形成とまちおこしをめざす	岡 詩子 (つるた街プロジェクト代表)	36名
中泊町	2/24 (土)	中泊町中央公民館	「笑顔のためのチャレンジ!～ホッケーガイは正義の味方ではなく、君の味方だ!」※講師の実践を聴き、自分たちでできるまちおこしについて協議	岩本 ヤヨエ (WOMEN'S VISION 代表)	11名

【成果と課題】

自然体験・交流塾では、野外炊事や牧場での就労体験、登山など、多様な体験活動を通して、社会とのつながりへのきっかけを求めている若者のコミュニケーション力の向上を図ることができた。また、はちのへ若者サポートステーションを中心に支援団体等との連携を図り、事業周知やボランティアの確保等の協力を得ることができた。今後は、自然体験・交流塾の継続的な実施に向け、支援団体等とのより一層の連携体制を形成していく必要がある。また、支援団体からは「ひきこもりは早期の対応が必要」との意見もあったことから、対象に高校生も加えることも検討したい。

若者の拠点づくり支援では、各市町村の現状と課題を踏まえ、希望する講師を派遣することができた。各市町村では、先進的な実践を学ぶことにより、若者団体の活性化及び、地域と若者団体のつながりを形成することができた。今後は実践的な活動への支援が必要である。

総合社会教育センター

高大連携キャリアサポート推進事業 876 千円

〔事業目的及び概要〕

高校生の「やる気」や意欲を引き出し、自らの夢に向かって主体的に行動できる人財を育成するために、大学生によるワークショップを実施するとともに、コミュニケーション、ファシリテーション等の研修を行い、大学生のスキルアップを図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) ワークショップ「キャリアサポ」の実施

- ア 実施高等学校数 25 校
- イ 参加高校生数 3,568 名
- ウ のべ参加大学生数 1,082 名

No.	期日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	6/10(土)	県立青森北高等学校	1 学年(6 クラス 240 名)	69 名
2	6/17(土)	県立黒石高等学校	1 学年(4 クラス 159 名)	52 名
3	7/ 1(土)	青森山田高等学校	1.2 学年(2 クラス 62 名)	39 名
4	7/ 8(土)	東奥義塾高等学校	1 学年(2 クラス 59 名)	33 名
5	8/22(火)	県立三戸高等学校	2 学年(2 クラス 41 名)	26 名
6	8/23(水)	県立田子高等学校	1.2 学年(2 クラス 37 名)	28 名
7	8/25(金)	県立七戸高等学校	1 学年(4 クラス 135 名)	44 名
8	8/28(月)	県立金木高等学校	1 学年(2 クラス 47 名)	24 名
9	8/30(水)	県立青森西高等学校	1 学年(6 クラス 236 名)	68 名
10	9/ 1(金)	県立三沢商業高等学校	2 学年(4 クラス 160 名)	42 名
11	9/ 2(土)	県立青森南高等学校	1 学年(6 クラス 242 名)	54 名
12	9/ 4(月)	県立田名部高等学校	1 学年(5 クラス 201 名)	48 名
13	9/ 6(水)	県立八戸西高等学校	1 学年(6 クラス 200 名)	54 名
14	9/ 8(金)	県立弘前中央高等学校	1 学年(6 クラス 240 名)	56 名
15	9/11(月)	県立大湊高等学校川内校舎	1.2 学年(2 クラス 26 名)	18 名
16	9/12(火)	県立五所川原農林高等学校	2 学年(4 クラス 139 名)	52 名
17	9/14(木)	県立青森商業高等学校	2 学年(6 クラス 239 名)	57 名
18	11/ 4(土)	県立浪岡高等学校	1 学年(2 クラス 57 名)	29 名
19	11/11(土)	県立弘前南高等学校	1 学年(6 クラス 242 名)	63 名
20	11/18(土)	八戸工業大学第二高等学校	1 学年(9 クラス 268 名)	69 名
21	11/25(土)	青森明の星高等学校	1 学年(6 クラス 199 名)	51 名
22	3/ 2(金)	県立五戸高等学校	1 学年(2 クラス 44 名)	18 名
23	3/ 2(金)	県立野辺地高等学校	1 学年(3 クラス 88 名)	30 名
24	3/ 5(月)	県立青森中央高等学校	1 学年(5 クラス 197 名)	49 名
25	3/ 5(月)	県立青森北高等学校今別校舎	2 学年(1 クラス 10 名)	9 名

(2) キャリア形成の支援

- ア 大学生会議(5/7(日), 7/16(日), 3/16(金))
- イ 実施校担当者等研修会(11/24(金)) 参加者 17 校 19 名
講演「キャリア教育活動としてのキャリアサポとカタリバ」
認定特定非営利活動法人カタリバ代表理事 今村 久美
事例発表「本校における高大連携キャリアサポート推進事業(CBS 法)について」
発表者 県立黒石高等学校 教諭 安田 道
- ウ 大学生対象研修会の開催
 - 基本研修(計 6 回) 受講者数 124 名
 - 応用研修(計 3 回) 受講者数 16 名

[成果と課題]

今年度は事業開始以来最多の 25 校でワークショップを実施したことで、高校生の「やる気」や意欲を引き出すワークショップ「キャリアポ」を計画的に実施するための仕組みを再構築することができた。

今後は、高校の実態や要望に合わせて、より教育効果が高いワークショップを維持するために、手法の見直しや研修の強化、大学生との連携を強固にし、主体的に活動できる人財を育成していく必要がある。

高校生スキルアッププログラム推進事業 263 千円

[事業目的及び概要]

高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的として、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 高校生スキルアッププログラムの運営

(2) 担当教員研修の実施

「担当者等研修会」の開催(高大連携キャリアサポート推進事業と共催)

○期日：11/24(金)

○場所：県総合社会教育センター

○対象：高校生スキルアッププログラム担当教員

○参加者：17 校 19 名

○内容：事例発表「高校生スキルアッププログラム推進事業について」

発表者 県立田名部高等学校 教諭 佐藤 香織

(3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・認定証交付者数

地区	学校数	参加生徒数	認定証交付者数
東青	3 校	182 名	3 名
西北	0 校	0 名	0 名
中南	0 校	0 名	0 名
上北	3 校	256 名	3 名
下北	2 校	560 名	14 名
三八	4 校	1,117 名	4 名
合計	12 校	2,115 名	24 名

[成果と課題]

参加校は減少したものの、学校外における活動へ意欲を持って参加する生徒は増加している。知識や経験の幅を広げたいと考える高校生が多くなったと推測される。参加した生徒が社会の変化に柔軟に対応でき、自分の考えを述べることができるようになった等、生徒の変容の報告が各校より寄せられている。今後も更なる認定証交付生徒数の増加に向けて、今後の学習の励みや今までに学習した努力を新たに評価する仕組みを構築することが必要となってきている。今以上に県内全高校への情報提供を行い、未登録校への参加を働きかける等、新たな取組を行う必要がある。

未来の青森県を担う若人育成講座 1,577 千円

[事業目的及び概要]

青少年が自己肯定感を高め、主体的に行動できるようにするため、異年齢集団における活動を通して、他者と協力し、相互に学び合う講座と演習を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 講座

○対象地域：東青地域(青森市)・中南地域(黒石市)・上北地域(七戸町)

○のべ受講者数：173 名

○参加学校数：14 校(大学3校、高校8校、中学校3校)

講座名	期日	場所	人数	内容・講師等
第1講座	4/30 (日)	県総合社会教育センター	13名	講義「児童への接し方について」 演習「畑活動の準備」
	6/18 (日)	黒石市立黒石東公民館	20名	講義「寺子屋の目的」 「ボランティアの意義」 演習「私たちが目指す寺子屋を考える」
	7/4 (火)	県立七戸高等学校	14名	「寺子屋運営に必要なこと①」
第2講座	7/23 (日)	県総合社会教育センター	14名	演習「第3講座の準備」
	7/9 (日)	黒石市立黒石東公民館	12名	演習「仲間づくり～アイスブレイク～」 講義「コミュニケーション論」
	7/9 (日)	七戸町立七戸南公民館	3名	演習「寺子屋運営に必要なこと②」 「寺子屋運営シミュレーション」
第3講座	8/10 (木) ～12 (土)	県総合社会教育センター他	19名	8/10 映画「ふるさとがえり」 8/11 高校生・大学生のワークショップ1 映画「空飛ぶ金魚と世界のひみつ」 8/12 高校生・大学生のワークショップ2 映画「惑う～After the Rain～」 講師 映画監督 林 弘樹
第4講座	8/27 (日)	県総合社会教育センター	15名	演習「第5講座(実践活動)の企画立案」
	9/3 (日)	黒石市立黒石東公民館	7名	
	9/24 (日)	七戸町立七戸南公民館	5名	
第5講座	10/1 (日)	県総合社会教育センター	15名	【実践活動】 (1) カレーライス販売体験 (2) ポップコーン販売体験 (3) 焼きそば販売体験
第6講座	10/15 (日)	県総合社会教育センター	11名	演習「寺子屋学習場面を振り返ろう」
	1/11 (木)	七戸町立七戸南公民館	3名	
	1/14 (日)	黒石市立黒石東公民館	7名	
第7講座	1/20 (土) ～21 (日)	公立小川原湖青年の家 他	15名	施設見学 七戸町立鷹山宇一記念美術館 十和田市現代美術館 ハピたのかふえ 活動紹介 講師 特定非営利活動法人 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子 交流

(2) 演習(寺子屋)

○ 登録者数

	校種別	大学生等		高校生		中学生		小学生		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	
青森	人数	4	9	11	18	5	4	21	26	98
	合計	13		29		9		47		
黒石	人数	4	2	5	16	0	4	9	13	53
	合計	6		21		4		22		

七戸	人数	0	1	0	15	4	1	9	11	41
	合計	1		15		5		20		

○ のべ参加人数

	校種別	大学生等		高校生		中学生		小学生		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	
青森(全43回) 県総合社会教育センター	人数	18	95	195	199	29	3	64	129	732
	合計	113		394		32		193		
黒石(全13回) 黒石市立東公民館	人数	10	2	8	37	0	6	42	48	153
	合計	12		45		6		90		
七戸(全12回) 七戸町立七戸南公民館	人数	0	2	2	39	2	0	11	34	90
	合計	2		41		2		45		

【成果と課題】

講座では、児童との接し方やコミュニケーションなどについて学ぶことで、演習「寺子屋」の運営に必要な技術を身につけ主体性を育むことを意識して講座を運営した。また、第3講座、第5講座、第7講座では3地区合同で実施したことで、各地区の課題を共有し解決するきっかけとしたり交流を図ったりすることができた。

演習では、講座で学んだことを生かして、中学生・高校生・大学生が主体性を発揮して学習やレクリエーションに取り組むことができた。

今後は、市町村で青少年が継続した活動を実施できるような体制を作っていく必要がある。

青少年異年齢交流モデル事業(寺子屋ありす)

【事業目的及び概要】

青少年の豊かな人間性や社会性を育むため、異年齢集団における交流活動を通して、主体的に関わり、相互に学び合い、成長できる仕組みづくりを行うモデル事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 事業内容

- ア 対象：青少年(小学生、中学生、高校生及び大学生)
- イ 期間等：毎週日曜日及び長期休業中 計43回
- ウ 場所：県総合社会教育センター

(2) 参加者等

- ア 延べ参加者数 732名
- イ 参加学校 26校(小学校10校 中学校4校 高等学校5校 大学等7校)

【成果と課題】

異年齢の青少年が校種を超えて、互いに学び、成長する機会を設定することができた。活動を継続する中で、高校生、大学生は主体的に企画を考え、協力し合うなど、社会性を育むことができた。また、継続して参加する青少年にとって「寺子屋ありす」は、居場所の一つとなりつつある。

今後は、活動の幅を広げたりモデル事業として様々な仕組みづくりを検討していく必要がある。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【事業目的及び概要】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組む方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	青森まちなしかへらあ～s	大学	青森市中心部におけるイベントの手伝いやガイドマップの作成等	53

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
2	L e s t a (レスタ)	大学	異年齢交流、小・中・高校生へのキャリア形成支援等	30
3	青森中央高校読み聞かせ隊	高校	子どもたちへの絵本の読み聞かせ、三陸復興応援活動等	15
4	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリサポ連合)	大学	高大連携キャリアサポート推進事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	522
5	L F V ～人の可能性を広げる団体～	大学	地域の子どもたちを対象とした地域の活性化活動	18
6	「世界遺産登録を目指す縄文遺跡群学芸員なりきりツアー」実行委員会	高校	学芸員の職業体験や土器造りのワークショップ・ガイド体験のボランティア活動	8

【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校	市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	14
2	名無しの労働者	高校	文化イベントでのダンス発表	3

(3) 団体支援

- ア 発表の場の提供
- イ 情報発信の専用掲示スペースの設置
- ウ ミーティング等を行うスペースの用意
- エ 所報「響」やホームページ等での活動状況の紹介
- オ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- カ 名義使用の許可
- キ 研修室等使用料の減免

【成果と課題】

青少年社会参加活動モデル団体は平成 27 年度から開始し、今年度は 6 団体が指定された。また青少年創作活動モデル団体研究事業は平成 28 年度からの事業であり、2 団体が指定され、高校生等の主体的な活動推進のため、計画的・持続的な流れを円滑に構築することができた。

今後は、さらに多くのモデル団体を募集するために、広報の強化等に取り組む必要がある。

学校と地域の協働実践セミナー 778 千円

【事業目的及び概要】

地域学校協働活動の推進に向け、関係者の理解及び意識啓発を促進するとともに、実施体制の構築、仕組みづくりや活動に係るスキルの向上を図ることを目的とした研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 公開講演(全国の先進的な取組についての講演、情報交換など)
 - 日時：9/21(木) 13:10～16:20
 - 場所：県総合社会教育センター
 - テーマ：「学校が変われば地域が変わる 地域が変われば社会が変わる」
 - 講師：大阪市立大空小学校 前校長 木村 泰子
 - 参加者：202 名
- (2) 地区研修会（講義、演習など）県内 4 地区開催
 - テーマ：子どもは地域の宝～地域と学校が連携して子どもを育むために～

開催地区	開催予定日	会 場	講 師	参加者数
下 北	6/29(木)	下北文化会館	弘前大学教育学部 教職キャリア支援コーディネーター 齋藤 厚	25 名
中南西北	9/28(木)	板柳町多目的ホールあぷる	青森県 P T A 連合会 事務局長 棚瀬 敏雄	24 名

東青	8/31(木)	県総合社会教育センター	八戸学院大学短期大学部	22名
三八上北	11/1(水)	三沢航空科学館	学長補佐 茂木 典子	36名

[成果と課題]

地域学校協働活動を推進するために、関係者の理解及び意識啓発の促進、活動に係るスキルの向上を図るための研修会を開催したところ、学校支援コーディネーターのコーディネート力が向上した。また、地域の人々が学校支援に関心を持ち、ボランティアとして学校支援を行うことにより、以前にも増して教育活動の充実が図られるようになってきている。

その一方、学校支援コーディネーターと企業等との結びつきが少ないため、企業の持つ教育プログラムをうまく学校で紹介できていないことから、キャリア教育についての知識を併せ持ったコーディネーターを育成していく必要がある。

教員力アップ！学校・家庭・地域連携講座 チーム「学校・家庭・地域」創造研修

[事業目的及び概要]

次期学習指導要領等を見据えた「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校・家庭・地域が『チーム』として連携し、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む重要性を学ぶとともに、実践事例から見える成果と課題を共有して、具現化するための研修を行い教員力の向上を図る事業である。

[事業内容及び結果]

- 対象：小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員等
- 場所：県総合社会教育センター
- 受講者数：40名
- 事業内容

11/16(木) 9:25～15:30

【説明】「地域学校協働活動」について 県教育庁生涯学習課

【講義】「社会に開かれた教育課程」の編成に向けて

講師 県総合社会教育センター 前所長 坂本 徹
 むつ市立関根小学校 教諭 白戸 一也
 弘前市立東目屋中学校 教頭 須郷 祐一
 県立鱒ヶ沢高等学校 教諭 木村 朋之
 県立八戸第一養護学校 教諭 三浦 大輔

【事例発表】「連携した活動」

【演習①】「課題克服の秘策を考えよう！」(校種別グループワーク)

講評 県総合社会教育センター 前所長 坂本 徹

11/17(金) 9:50～15:30

【情報提供】「連携事例の紹介」(ブース形式) 県近代文学館 文学専門主査 武永 佐知子
 県立郷土館 学芸課 研究主査 福士 道太
 県立美術館 美術企画課 主幹 江渡 典之
 県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室 主事 工藤 赳生
 三内丸山応援隊事務局長 三浦 進

【事業説明】「教育支援プラットフォーム事業」の紹介

【演習②】「企業による模擬授業体験」(グループ入替制) (株)明治
 (株)青森入浴ケアサービス

【演習③】「教育課程編成に生かす計画・立案」(校種別グループワーク)

[成果と課題]

次期学習指導要領の実施に向け、「社会に開かれた教育課程」の編成について理解を深め、学校・家庭・地域が連携することの重要性について学ぶ機会として実施できた。特に、事例発表者も直後のグループワークに加わっていただき、課題の共有化を話し合うことで当事者意識を持って同校種間のネットワーク形成を図ることもできた。今後は、先進事例をさらに情報収集しながら研修講座実施に向けた積極的参加を促す周知活動を行い、より多くの学校教育関係者が実践的に「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、完全実施に向けた計画作成に生かすことができるようにする。

絆でつながる家庭教育支援セミナー 884 千円

〔事業目的及び概要〕

家庭教育支援に関わる人々の輪を広げるため、地域の絆の中での家庭教育支援につながる講座の企画・運営等の実践を通して、地域に密着した家庭教育支援者を育成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 家庭教育支援講座・基礎講座・連携講座・実践講座を実施した。
 ○場所：青森市(県総合社会教育センター)、六ヶ所村(六ヶ所村立中央公民館)
 ○回数：各 10 回
 ○参加者数：計 20 名(青森市 11 名、六ヶ所村 9 名)
 ○内容
 基礎講座 4 回(支援の手法等)、連携講座 2 回(活動者との情報交換等)、実践講座 4 回(子育てサロンを活用)

回	開催場所	開催日	内 容
1	青森市	5/12(金)	基礎講座①「家庭教育支援者としてできることを考えてみよう」
	六ヶ所村	5/24(水)	基礎講座①「家庭教育支援者としてできることを考えてみよう」
2	青森市	6/9(金)	子育てサロン「子どもの成長記録をつくろう」
	青森市	6/16(金)	基礎講座②「子どもの気になる行動と関わり方～発達障害への理解～」 講師 児童心理治療施設「青森あおぞら学園」理事長・施設長 鳴海 明敏 子育てサロン「手遊び歌や読み聞かせをしよう」
	六ヶ所村	6/28(水)	実践講座・子育てサロン②「手遊び歌や読み聞かせをしよう」
3	青森市	7/11(火)	実践講座・子育てサロン①「手遊び歌や読み聞かせをしよう」
	青森市	7/14(金)	実践講座・子育てサロン①「大型絵本を読もう」
	六ヶ所村	7/26(水)	連携講座・子育てサロン①「昨年度の取組について」 講師 子育て支援サークル「ハグハグ」代表 山内 美恵子 花田 啓子 子育てサロン「身長と体重を計ろう」
4	青森市	8/8(火)	子育てサロン「折り紙や紙芝居で楽しもう」
	青森市	8/18(金)	連携講座①「昨年度の取組について」 講師 子育て支援サークル「ハグハグ」代表 山内 美恵子 花田 啓子 西田 充子 子育てサロン「音の出るおもちゃをつくって遊ぼう」
	六ヶ所村	8/30(水)	基礎講座②「保護者への支援の仕方について」 講師 児童心理治療施設「青森あおぞら学園」理事長・施設長 鳴海 明敏 子育てサロン「音の出るおもちゃをつくって遊ぼう」
5	青森市	9/8(金)	実践講座・子育てサロン②「アートな秋」
	青森市	9/22(金)	実践講座・子育てサロン②「手作りおもちゃで遊ぼうⅡ」
	六ヶ所村	9/27(水)	基礎講座・子育てサロン③「寄り添うこと・つながること」 講師 青森抱っこの会 松林 恵公子 子育てサロン「手形・足形アート」
6	青森市	10/13(金)	実践講座・子育てサロン③「コムギンおばけをつくろう」
	青森市	10/20(金)	実践講座・子育てサロン③「まったりおしゃべりしよう」
	六ヶ所村	10/31(火)	実践講座・子育てサロン②「ろっぷる横町で遊ぼう」
7	青森市	11/10(金)	実践講座・子育てサロン④「バスタオルで遊ぼう」
	青森市	11/17(金)	実践講座・子育てサロン④「体を動かそう」
	六ヶ所村	11/29(水)	実践講座・子育てサロン③「ミニミニコンサートを楽しもう」
8	青森市	12/8(金)	子育てサロン「折り紙でサンタさんを折ろう」
	青森市	12/13(水)	連携講座②「支援者としてあなたができること」 講師 特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり 代表 沼田 久美 子育てサロン「クリスマスの絵本を親子で楽しもう」

	六ヶ所村	12/20(水)	基礎講座④「離乳食ミニミニ講座」 講師 六ヶ所村保健相談センター 主幹 橋本 奈央
9	青森市	1/12(金)	基礎講座③「病気の子どもへの対応」 講師 青森中央学院大学看護学部 教授 中久喜 町子 子育てサロン「簡単なストレッチをしよう」
	青森市	1/19(金)	基礎講座④「寄り添うこと・つながること」 講師 青森抱っこの会 松林 恵公子 子育てサロン「まったりおしゃべりしようⅡ」
	六ヶ所村	1/31(水)	連携講座②「支援者としてあなたができること」 講師 特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり 代表 沼田 久美 子育てサロン「親子で楽しくリズム遊び」
10	青森市	2/9(金)	子育てサロン「手形スタンプでバレンタインのメッセージカード作り」
	青森市	2/16(金)	子育てサロン「ママたちのおしゃべりタイム」
	六ヶ所村	2/28(水)	実践講座④・子育てサロン「読み聞かせと指人形を楽しもう」

(2) 共通スキルアップ講座

家庭教育支援の先進的で実践的な内容についての講座及び演習を実施した。

○日時：10/6(金) 10:00～14:30 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者：99名

○内容

公開講演 演題：「親子を支援する上で大切なこと」

講師：玉川大学 教育学部 教授 大豆生田 啓友

情報交換会 テーマ：「支援の在り方を考えよう～自分たちの活動の充実・発展のために～」

【成果と課題】

受講者のほとんどが家庭教育支援に初めて携わる方々であったため、受講者のニーズに応える研修内容を編成し実施したところ、受講者から高い満足度を得ることができた。また、実践では、子育てサロンに参加する保護者の相談やニーズを捉えて実践したことで、より子育ての現状と課題を知ることができた。一方で早期の段階で実践講座を開いたため、経験のない受講者には戸惑いが見られた。今後は受講者が段階を踏んで学んでいながら意欲を高めていける講座内容の改善が必要である。また、セミナー修了後も受講者が継続して家庭教育支援者として活動していけるような環境を整えていく必要がある。

家庭教育支援交流モデル事業(ほのぼのサロン)

【事業目的及び概要】

家庭に関する情報交換や悩み相談等を通して相互に学び合うことを目的に、日常的な親同士のつながりや子育ての先輩たちとの交流ができる仕組みづくりを行う事業である。

【事業内容及び結果】

○対象：家庭教育支援に意欲的な人 ○実施場所：県総合社会教育センターほのぼのルーム

○実施回数：月2回（計18回） ○参加者組：延べ107組（親子）

○内容：家庭教育支援者による「おやこの広場(ほのぼのサロン)」の実施

【成果と課題】

安定した参加者を得ることができた。特に今年度はリピーターの方々の利用が多かった。理由として、同世代の子をもつ親同士いろいろな情報交換ができたことや、サロンが保護者にとって気分転換の場になっているのが要因と考えられる。課題として、イベント的な内容でない時でも、気軽に立ち寄れる環境づくりや、参加する親のニーズに応じていけるような仕組みづくりを検討していく必要がある。

家庭教育支援コンテンツ制作事業 3,340千円

【事業目的及び概要】

家庭教育の重要性を訴えるとともに、子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを軽減することを目的として、学習機会と情報の提供を行うとともに、学習教材(動画)の制作と普及活動を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 動画制作普及委員会の設置

制作内容の検討・評価等を行うとともに、普及活動について検討する。

○会議の開催

- 第1回動画制作普及委員会 5/16(火)
- 第2回動画制作普及委員会 6/19(月)
- 第3回動画制作普及委員会 9/11(月)
- 第4回動画制作普及委員会 1/23(火)

○委員名簿

No.	氏名	所属等	備考
1	茂木典子	八戸学院大学短期大学部 学長補佐	委員長
2	佐藤秀樹	こどものくに 園長	副委員長
3	加藤知明	弘前市立船沢小学校 校長	
4	吉田圭子	県子ども家庭支援センター 部長	
5	笠井麻喜	県総合学校教育センター 指導主事	
6	谷本歩	夢結ぶメッセンジャーShitoE 代表	

(2) 学習教材(動画)の制作

○一般家庭向け(5分×10本、民間委託制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、様々な家庭等での取組を紹介する。

- 「子どもの遊び場ある?ない?」
- 「助産師の子育て支援」
- 「虫歯予防 子どものうちから身に付けよう!」
- 「地域で支える子どもの体力づくり～肥満傾向児出現率を抑えるために～」
- 「「LGBT」って知ってますか?」
- 「小一の壁～働くママさんたちの葛藤～」
- 「子どもたちの健康を守るイクジイ・イクバア」
- 「放課後は友だちがいっぱい」
- 「命の大切さを考えるきっかけ」
- 「寝る子は育つ～子どもの成長と睡眠時間～」

○家庭教育支援テレビ番組(15分×4本、民間委託制作)

4～6歳の子どもをもつ保護者及び乳幼児期の子どもを孫にもつ祖父母等多くの方々を対象とした作品とし、家庭教育に広く関心をもってもらう。

- 「地域で支える子どもの体力づくり」
- 「はじめよう!生活習慣の改善～肥満・虫歯予防～」
- 「働くママが抱える小一の壁」
- 「子どもたちの健康を守るイクジイ・イクバア」

○動画の活用方法

- ・ホームページでの動画配信やDVD等による各種研修会等での活用。
- ・市町村やPTA等から要望があれば、講師としてコンテンツを活用した講座を行う。
- ・コンテンツを活用した講座の活用方法について、展開例を作成する。

【成果と課題】

コンテンツ 10本を制作した。県内の子育て支援を行っている団体の紹介や、子どもの生活習慣、働くママさんたちが抱える問題を取り上げるなど、バラエティーに富んだ内容にまとめることができた。また、様々な家族形態にも着眼し、それぞれの子育ての状態や悩みの「本音」を動画にしたことで、視聴した方々が共感できる作品を制作することができた。コンテンツ作品を用いての出前講座も昨年度より多くの回数を実施することができたが、小中学生をもつ保護者からは、「もう少し小中学生用の動画が見たい」という意見も多くあったので小中学生の保護者向けの動画の数も増やしていく必要がある。

家庭教育相談事業 394千円

【事業目的及び概要】

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生の子を持つ親や家族を対象に、電話・メール等により寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

【事業内容及び結果】

- 対象：乳幼児から高校生までの子育て・孫育て中の親と家族

○実施方法：電話相談・週2回 水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00
メール相談・24時間受付

○場 所：県総合社会教育センター電話相談室

○対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について

○相談体制：県総合社会教育センター家庭教育担当職員及び家庭教育支援員が対応

○相談件数：47件「(2/28現在)」(電話相談38件、メール相談12件)

[成果と課題]

相談件数は昨年度とほぼ変わらない状況であった。相談内容は、「発達・発育」、「問題行動」の順に多く、今年度の特徴として次に「学習・進路」についての相談が多かった。いずれの相談も電話相談員が時間をかけてじっくりと傾聴することで、相談者の悩みや不安を軽減することに寄与することができた。今年度は学校教育課、県総合学校教育センター、県子ども家庭支援センター(アピオあおもり)との連絡会議を年2回開催し、情報交換を行うとともに連携を深めることができた。

今後も相談機関との連携を生かすとともに、様々な機会を利用し、「すこやかほっとライン」について周知を図っていく必要がある。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、市町村立図書館等に対して幼児、児童・生徒用図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	36	3,180	37	3,280
	中学年	36	3,220	37	3,320
	高学年	36	3,260	37	3,360
2 中学校	中学校	7	260	7	260
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	55	6,210	48	5,160
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	53	1,155	41	635
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	12	529	10	412
6 ブックトーク セット	小・中学校、高等 学校、特別支援学 校、図書館	5	120	11	230

[成果と課題]

市町村立図書館等による学校図書館等との連携を支援することができている。
毎年度、新しい本を利用してもらえるように、図書セット内容更新を課題としている。

高校生の読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

高校生(特別支援学校高等部を含む。)の読書活動推進を目的として、高等学校図書館等に対してキャリア教育の充実、教育活動を支援する図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

前期		後期	
配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
6	600	8	800

29年度事業の実績

[成果と課題]

高等学校図書館等への支援を行うことができています。
配本先拡充が課題である。

梵珠少年自然の家

梵珠少年自然の家主催事業 1,530 千円

(1) 看板事業

[事業目的及び概要]

教育効果が高い企画及びその運営手法などを広く普及啓発していくことを目的として、発達段階に応じた施設の魅力を生かした活動プログラムを提供していく事業である。

活動名	期日	対象	参加者数	内容
9歳チャレンジ・キャンプ ～ひとりでもできるぞ!～	7/28(金) ～30(日)	9才児童 (小学3・4 年生)	31名	出会いのつどい、仲間づくり交流ゲーム、家族への手紙書き、テント設営、ベイトトラップ製作と設置、松倉神社登山、キャンドルサービス、ディスクゴルフ、野外炊事、別れのつどい
夏の7days キャンプ ～梵珠から小泊へ この 夏マウンテンバイクで走 る120kmのチャレンジ!～	8/6(日) ～12(土)	小学5年生 ～中学3年 生の児童生 徒	22名	出会いのつどい、マウンテンバイク 隊列走行トレーニング、キャンプフ ァイヤー、マウンテンバイクによる 移動型テント泊、野外炊事、のし カ作り体験、海釣り体験、メモリ アルクラフト、別れのつどい
年長すくすくキャンプ ～キッズの大冒険～	9/9(土) ～10(日)	幼児(年長 児)とその 保護者	34名	はじめのつどい、アイスブレイク、 棒パン作り、丸太切り体験、手巻き 寿司作り、読み聞かせ、テント泊、 カートンドッグ、丸太メダル作り、 おわりのつどい
ぼんじゅ冬キャンプ ～冬山ハイキングを楽し もう～	2/16(金) ～18(日)	小学3年生 ～中学2年 生の児童生 徒	32名	出会いのつどい、仲間作り交流ゲー ム、スノーシューハイキング、ぼん じゅ室内ペタンク大会、炊事、キャ ンドルサービス、チューブソリ滑走 体験、思い出クラフト、別れのつど い

[成果と課題]

新規に立ち上げた事業ということもあり、どの事業も定員を超過する申し込みがあり、中でも9歳チャレンジ・キャンプは申し込み受付開始から15分足らずで定員に達するという盛況であった。

どの事業も施設及び地域の教育資源を取り入れた新規プログラムを提供した。9歳チャレンジ・キャンプにおいては松倉神社への縦走登山、夏の7days キャンプにおいては120kmを走破したマウンテンバイクによる隊列走行、年長すくすくキャンプにおいては丸太切り体験及び丸太メダル作りなど、参加者の心に残る印象深い体験になったと感じている。アンケートには、自然の素晴らしさ、仲間やスタッフと協力して達成した喜び、家族を含め周りの人たちへの感謝の気持ちが綴られており、参加者の豊かな感性や社会性を育み、社会を生き抜く力の養成につながる成果が大であったと考えている。

課題としては、アンケートによる従来の事業評価しか実施できなかったことがあげられる。参加者には、グループダイナミックスの力による相互理解や様々な気づきの場面が随所に見られた。そして、やりとげた達成感や満足感がもたらす気持ちの高揚や周囲への感謝の思いを口にする参加者も見られた。これらの心理的な変容を検証し考察するまでは至らなかった。事業成果の普及啓発を目指していく上で、次年度は様々な側面からの評価を実施し、その結果を発信していかなければならない。

また、今年度参加した児童生徒がリピーターとして参加することを想定し、新しい企画を円滑に、かつ安全に運営できるよう入念に準備を進め、さらに充実した事業としていきたい。

(2) 養成事業

〔事業目的及び概要〕

自然体験活動の普及を図ることを目的として、当施設の利用団体の引率者、高校生、大学生、青少年教育団体の関係者を対象に、基礎的技術の伝達や様々なプログラムを体験できる研修機会を提供し、自然体験活動の指導者を養成する事業である。

活動名	期日	対象	参加者数	内容
在学少年宿泊指導者研修	4/18(火) ～19(水)	平成29年度 利用予定団体の 引率者及び 今後利用を考 えている団体の 引率者	113名	実技体験(野外・室内・創作の各プログラム)、宿泊体験、講義(自然体験活動の意義及び効果的な自然の家の利用について)、説明(施設利用に当たっての留意点)、演習・実践(日課表作成)
自然体験活動ボランティア入門セミナー	5/27(土) ～28(日)	高校生以上 (高校生、大学生、青少年指導者等)	28名	講義、野外活動、課題解決型野外炊事、キャンプファイヤー、人間関係作りワークショップ、救命救急実習、施設ボランティア登録
自然体験活動ボランティア実践セミナー (1)9歳チャレンジキャンプ (2)夏の7days キャンプ (3)ファミリーキャンプ (4)年長すくすくキャンプ (5)自然体験ぼんじゅフェスタ (6)冬にとびだそう (7)ぼんじゅ冬キャンプ (8)ぼんボラ大感謝祭！ ～県下一斉大交流会～	実施日は各事業を参照	「自然体験活動ボランティア入門セミナー」を受講していることが参加条件	(1)6名 (2)5名 (3)9名 (4)9名 (5)22名 (6)7名 (7)7名 (8)16名 主催事業におけるボラスタの人数は参加者数にカウントされている。	自然体験活動ボランティア入門セミナーで学んだ成果を生かし、各自が選択した(1)～(7)の主催事業の中で、自主企画の企画立案及び運営を実践した。 【活動内容】 主催事業においては、参加者の活動支援及び安全管理、仲間づくりの促進、創作活動時の製作指導、自主企画の立案及びその運営等の実施。 ぼんボラ感謝祭においては、ボランティアに関する基調講演、アイスブレイク手法の伝達会、ドリームワークショップ「我々だからできる梵珠の元気」への参加によるスキルアップ
④指導者養成 ～ぼんじゅ出前講座～	平成29年 4月～5月、 10月～平成 30年3月 【各回即日】	幼稚園・保育所及び小・中学校、特別支援学校の小・中学部、青少年教育団体(子ども会、児童館、公民館、放課後子ども教室等)	2,913名	団体が開催する各種行事(事業)に出向き、自然の家が提供するプログラムの実施における指導と助言を行う。指導及び助言とは、指導者への指導法等の伝達及び助言、児童生徒への直接指導、指導者研修会等での指導及び助言や実地指導である。活動プログラムは自然の家ホームページ「指導者養成～ぼんじゅ出前講座～」プログラム一覧参照

〔成果と課題〕

養成事業として、自然体験活動ボランティア入門セミナー及び実践セミナーを立ち上げ、ボランティアスタッフの意識・意欲の向上や自然体験ボランティアに係るスキルアップに取り組んだ。

従来の補助的な立ち位置から、今年度は自主企画を立案し実践する指導者の立場として参加者の前に立つ場面が多くなったことから、学生スタッフのやる気や自覚が高まり事業への参加者数も増え、参加者や来場者との関わりの中で、ぼんじゅのボラスタとして認知され感謝される存在となった。ボラスタの活躍が主催事業の活性化に大きく寄与したと考えている。

ボランティア養成事業により、後輩ボランティアの指導にあたるマスターボラも多数輩出したことから、次年度は一層の飛躍が期待される。そのため、自然の家職員がボラスタの組織運営をサポートし、円滑にかつ強固になるよう働きかけ、一人一人の思いをくみ上げてさらなる自己実現につながるステージを用意していきたい。

また、ぼんじゅ出前講座も従来より指導者養成色を強め、要請のあった団体指導者たちのスキルアップを図りつつ参加者も満足させたことから、事業として大きな発展を見せた。次年度は、継続してこの事業を利用している団体には、少しずつ間接指導を利用しながら自立していけるよう方向付けしていきたい。

(3) 親子事業

【事業目的及び概要】

親子や仲間とのふれあいを深めながら自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度を育てることを目的として、施設周辺の恵まれた自然環境を生かした多様な体験活動を行う事業である。

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day ～春の妖精たちに会いに行こう～	4/30(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	43名	自然観察・摘み草体験、よもぎスイーツづくり
ファミリーキャンプ 家族 day 野外炊事！ ～ダッチオープンに挑戦してみませんか～	8/26(土) ～27(日)	幼児～中学生とその保護者	17 家族 72名	野外活動体験、ダッチオープンによる野外炊事、キャンプファイヤー、テント泊、創作活動
自然体験ぼんじゅフェスタ	10/29(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者及び自然体験活動に関心のある方	338名	ダッチオープン体験、せんべい焼き体験、本格リース作り、自然物を使った創作ブース、木材を使った創作ブース、フリー体験ブース、遊びのコーナー、野外活動他
本格門松をつくろう	12/16(土) 及び 17(日) 【両日とも同内容】	小・中学校の児童生徒とその保護者及び一般の方	275名	本格門松づくり (土台作り、飾り付け)
冬にとびだそう ～親子で白銀の世界へ～	1/20(土) ～21(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	49名	アイスブレイク、雪灯籠作り、炊事「鍋焼きうどん」、夜の雪灯籠祭り、竹のストラップ作り、チューブそり遊び

【成果と課題】

親子事業においても、新たな企画により参加者が大幅に増え大変好評であった。特にキャンプビギナーのファミリーにキャンプの魅力や様々なノウハウを伝えたファミリーキャンプ、屋外にも多数のブースを設置して参加者を大幅に増やした自然体験ぼんじゅフェスタはその象徴であり、リピーターにも梵珠の変化を確実に実感してもらえたと思う。

これらの事業は親子で自然に親しむ第一歩ととらえているので、次年度以降も多数の新しいビギナーを取り込みつつ、リピーターの経験値をさらに上げていけるようプログラムの企画運営を進めていきたい。そして、親子事業で興味を持った子どもたちが、さらに高みを目指して看板事業へ参加してもらえるように魅力ある事業をラインナップしたい。

種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 777 千円(需用費・役務費除く)

【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもに育てることを目的として、自然体験活動や野外でのキャンプ活動、創作活動等さまざまな活動を体験する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/14(日)	小・中学生とその保護者	106名	・館内オリエンテーリング ・ニュースポーツ ・竹トンボ作り ・種差アロマアートづくり
たねさしワールド 「エンジョイ！海遊び」 ①② ※2回開催	7/2(日)		136名	・いかだ遊び ・カヌー遊び ・磯遊び、かにつり ・サンドクラフトづくり
	7/9(日)		200名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/15(日)	小・中学生とその保護者	124名	・秋の森さんぼと木の実アート作り ・石焼きいも作り ・ネイチャーゲーム
たねさしワールド 「つくって新発見」	12/3(日)	小・中学生とその保護者	124名	・クリスマスリース巻き ・水風船キャンドルづくり ・簡単ランプづくり ・クリスマスリース飾り
たねさしワールド 「エンジョイ！雪遊び」 ①② ※2回開催	1/27(土)	4歳以上の幼保・小・中学生とその保護者	87名	・スノーチューブすべり ・そり遊び ・せんべい焼き
	1/28(日)		110名	
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/10(土)～11(日)	小3年～4年	40名	・仲良しタイム ・森の探検 ・館内ツリーイング ・スノーチューブすべり
	2/17(土)～18(日)	小1年～2年	39名	

(2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプ	8/8(火)～11(金)	小5年～中3年	39名	・テントでの宿泊体験 ・室内ゲーム ・夜のマリエント見学 ・星空のつどい ・うどん作り、流し ・磯観察 ・たね坊カップゴルフ大会 ・野外炊事 ・キャンドルファイヤー ・お話しの集い ・思い出風鈴作り
わくわくどきどき ウインターキャンプ	12/25(月)～27(水)	小5年～中3年	24名	・テントでの宿泊体験 ・そり遊び ・冬の森探検 ・星空ウォッチング ・南部昔っこと話し会 ・思い出色紙づくり ・炊事活動

〔成果と課題〕

ア 成果

- ・親子が四季折々の自然環境の中で、さまざまな自然体験活動を楽しみ、交流を深めていた。
- ・参加同士が仲良く談笑したり、協力し合ったりする場面が随所に見受けられ、良い人間関係作りができた。
- ・不順天候続きで、外での活動が制限された事業もあったが、館内活動でも十分に楽しんでいた。

イ 課題

- ・メールによる参加者申込みを受け付けたのであるが、多数の応募があり、参加を断ることが多かった。募集定員を増やしながらか、安全面に配慮しながら事業の充実を図っていききたい。
- ・事業開催にあたっては、ボランティアの協力を頼るところが多く、資質の向上も含めて、自然体験活動研修会等の研修会への参加を呼びかていききたい。

自然体験活動支援事業 85 千円(需用費、役務費を除く)

[事業目的及び概要]

学校や身近な野外活動場で子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動の現地支援を行う。また、自然体験活動の指導者の資質向上を図ることを目的として、小中学校及び関係機関等の指導職員を対象に行う研修事業である。

[事業内容及び結果]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5 月及び 10 月～3 月 *6 月～9 月 は原則なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、青少年団体 や成人団体等 ※10 名以下の団体も可	142 団体 のべ 15,950 名	・種差少年自然の家のプログラムの中 で出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、 動物マグネット、貝がらアート 他
自然体験活動 研修会	6/3(土) ～4(日)	幼・小・中学校教員、 高校・大学生、児童 館など関係機関の 指導者、その他自然 体験活動に興味の ある方	14 名	・アドベンチャーゲームや野外活動 ・野外炊事や創作活動等のプログラ ムの実習 ・自然体験活動にかかわる実習 ・危機管理対応訓練等

[成果と課題]

ア 成果

- ・自然体験活動出前講座が三八上北管内はもちろん県内においても周知されてきた。
- ・自然体験活動出前講座が地域のイベントへの参加依頼が多くなってきた。
- ・自然体験活動研修会では、炊事体験、活動プログラム体験等を実施し、子どもへの効果的な支援や技術を学ぶ機会となった。
- ・自然体験活動研修会では、海の活動での救助や避難の仕方、緊急時の連絡等、職員と一体となり、演習的な機会の場となった。

イ 課題

- ・自然体験活動出前講座は遠隔地に出向くことがあり、交通安全を喚起したい。
- ・自然体験活動研修への参加が少ないので、保育士、幼稚園教諭、大学生などに広報していきたい。

在学少年宿泊指導者研修

[事業目的及び概要]

種差少年自然の家を利用する小・中学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

[事業内容及び結果]

- 期日：4/24(月)～25(火) ○場所：種差少年自然の家 ○参加者数：72 人
- 内容：(講義)社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方
(実習)活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
(演習)活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

[成果と課題]

ア 成果

- ・宿泊団体の小、中、養護学校の教職員がほとんど参加し、交流を深めながら、自然体験や生活体験の支援の仕方等、知識・技能の習得ができた。

イ 課題

- ・参加者に、限られた時間内での研修であるので、さらに資質向上と技術の習得のために、自然体験活動研修会への参加を呼びかけていきたい。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 33 千円(需用費、役務費を除く)

[事業目的及び概要]

避けることのできない自然災害に遭遇したとき、災害時における実践的な対応能力を育むことを目的として、小・中学生の家族を対象に行う研修事業である。

[事業内容及び結果]

事業名	期 日	対象	募集定員	内 容
親子の絆 ～防災編～	9/23(土) ～24(日)	小・中学生と その保護者	20 組 55 名	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習「防災の心得」「災害時における家族との連絡のあり方」「非常持ち出し袋について」「非常時のトイレや入浴」「非常食」 ・体験活動「防災ナイトハイク」 ・音楽鑑賞「心の栄養」

[成果と課題]

ア 成果

- ・親子で、災害が起こった時、どういう行動していったらよいかを考える十分な時間設定をしたので、好評であった。親子のコミュニケーションをてるよい機会となった。
- ・講義、演習、体験活動、鑑賞会など、バラエティーに富んだプログラム設定だったので、知識や技能も深まり、避難時の心の健康までを考えるよい機会となった。

イ 課題

- ・幼児も参加したので、講義等では飽きてしまう子もあり、発達段階を踏まえたプログラムを提供していきたい。
- ・テント泊をしたいという希望があったので、30年度はそのような方向にしていきたい。

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者の育成
- イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

生涯学習課

市町村の社会教育活性化支援事業 1,130千円

〔事業目的及び概要〕

市町村の社会教育主事等の力量形成とその専門性を生かした社会教育の活性化を目的として、生涯学習課と教育事務所が連携し、地域課題の検討会や研修会を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 市町村地域課題検討会

生涯学習課や教育事務所の社会教育主事が各市町村に出向き、それぞれの課題に応じて課題解決に向けた方策や手法を検討した。8市町村で開催し、必要に応じ県内の有識者を派遣した。

市町村名	検討内容	実施回数
外ヶ浜町	公民館を活用した職業体験等の事業の計画について	3回
鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町社会教育計画の策定について	3回
板柳町	地域学校協働活動の推進について	3回
平川市	若い世代の地域の担い手として活躍できる仕組みづくりについて	5回
三沢市	地域学校協働活動の推進について	1回
おいらせ町	おいらせ町子ども読書活動推進計画の策定について	4回
佐井村	公民館機能の活性化について	3回
階上町	まちづくりコーディネーター養成講座の開講について	3回

(2) 市町村社会教育主事等専門研修

市町村の社会教育主事等が、生涯学習・社会教育推進に係る職員として必要な資質・能力の向上を図るため、講義やグループ協議など実践的な研修を開催した。

ア 集合研修

第1回

○日時：5/12(金) 9:55～12:00 ○会場：県総合社会教育センター ○参加人数：30名

○内容：講義「地域学校協働活動の推進について」

講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 地域学校協働推進室長 渡辺 栄二
グループ協議 ①担当する市町村で取り組んでいる具体的事例
②地域学校協働活動を進めるにあたっての課題

第2回

○日時：2/22(木) 9:50～12:00 ○会場：県総合社会教育センター ○参加者：34名

○内容：講義「社会教育行政に関わる職員の職務と専門性

～コミュニティ・オーガナイズの事例から～

講師 NPO法人コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン フェロー 林 大介
ディスカッション：「私たち社会教育主事等に求められることは？」
「私たち社会教育主事等が抱えている課題は？」
「私たち社会教育主事等の「同士」「強み」とは？」
「私たち社会教育主事だけではできないことは？」

イ 地区研修

《東青地区》

第1回 10/18(水) 13:00～16:00 県総合社会教育センター 参加者 15名

○講演：「学校と地域の連携・協働の在り方」

講師：弘前大学教育学部 准教授 松本 大

○グループ協議・演習：「学校と地域が連携するために」～自分の町村の実態から～

《西北地区》

第1回 11/2(木) 13:00~16:00 五所川原合同庁舎 1C会議室 参加者 14名

○グループ協議：『『西北の教育』社会教育行政の〔特に推進すべき事項〕に沿った実践事例についての情報交換、成果や課題などに関する協議』

○講評・講義：「西北の社会教育の特に推進すべき事項への取り組み方について」

講師 弘前大学教育学部 准教授 松本 大

《中南地区》

第1回 5/26(金) 14:30~17:00 平川市尾上総合支所 参加者 47名

○実践発表及び協議：大鱈町、田舎館村、黒石市からの話題提供

○講話：「次世代の地域と学校をクリエイトするために」

～社会教育委員と社会教育担当者に課せられたミッション～

講師：弘前大学名誉教授 佐藤 三三

《上北地区》

第1回 7/10(月) 13:00~16:00 上北教育事務所 参加者 7名

○講義・演習：「ネットワーク形成の支援(事例研究)」

講師：弘前大学教育学部 准教授 松本 大

第2回 12/5(火) 9:30~12:00 上北教育事務所 参加者 8名

○講義・演習：「ネットワーク形成の支援(実践レポートの発表)」

講師：弘前大学教育学部 准教授 松本 大

《下北地区》

第1回 11/20(月) 10:30~12:00 むつ合同庁舎 参加者 4名

○研究協議：「まちづくり・人づくりに地域ぐるみで取り組む社会教育の在り方」

話題提供 下北教育事務所 主任社会教育主事 吉岡 勝

○情報交換

《三八地区》

第1回 7/7(金) 14:20~16:40 八戸市福祉公民館 参加者 7名

○グループ協議：「学校・地域・家庭の連携に関するグループ協議」

○講演：「八戸市における地域密着型教育」

講師 八戸市教育委員会 教育指導課 副参事 三角 浩司

[成果と課題]

地域課題検討会については、市町村の社会教育主事等がその専門性を生かしながら、それぞれの市町村が抱える課題を解決するための方策や手法を様々な視点から検討することができた。本事業により、地域課題を解決することが、あるいは解決に向けて進むことができた。今後は、各市町村の実態に沿った課題とともに、県として検討していくべき課題についても支援を行う必要がある。

社会教育主事等専門研修の集合研修では、地域学校協働活動の推進やコミュニティ・オーガナイズンについて理解を深め、社会教育に関わる職員に必要な資質・能力を向上する機会となった。また地区研修では、地域学校協働活動等をテーマとした研修が開催され、地域や学校との連携等の重要性について理解を深めることができた。今後は、国の動向を踏まえながら地域課題解決や地域のよさを生かすための方策等を考えるための支援を行う必要がある。

総合社会教育センター

パワフルAOMORI! 創造塾 1,429千円

[事業目的及び概要]

新たな地域活動者の発掘を行いながら、仲間づくりの促進やネットワーク(つながり)の形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

[事業内容及び結果]

○ 内容

	期日	内容・講師等
第1回	7/29(土) ～30(日)	「オモイ」を広げる 【講義・演習】「映像制作ワークショップをとおした地域づくり」 ものがたり法人 FireWorks 代表 映画監督 林 弘樹

	期日	内容・講師等
第2回	8/19(土) ～20(日)	「オモイ」をみがく 【特別講演】「あおもりの未来をつくる人づくり～未来を変える挑戦～」 青森県知事 三村 申吾 【講義・演習】「地域づくりの現場のまっただ中で」 塩尻市企画政策部地方創生推進課 山田 崇 つるた街プロジェクト代表 岡 詩子
第3回	10/28(土) ～29(日)	「オモイ」を「カタチ」に！ 【講義・演習】「オモイ」を「カタチ」にする情熱と行動」 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和
第4回	11/25(土)	わたしのアクションプラン大自慢大会 【演習】塾生によるプレゼンテーション

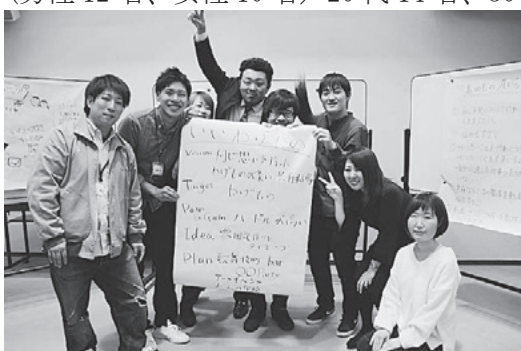
○場所

第1～3回 県総合社会教育センター・青森公立大学国際交流ハウス

第4回 県総合社会教育センター

○参加者

22名 (男性12名、女性10名/20代14名、30代6名、40代2名) 一日聴講生 延べ3名



【成果と課題】

全回参加が原則であることと3回の講座が宿泊を伴うことから、時間的な制約を受けることなく講義・演習等を行うことができ、学習の深化と塾生間のネットワークの強化につながった。講師による指導を受けながら、小グループで今後の地域活動に関わるプランを作成するなど、地域活動を進める上でのポイントやノウハウ等を学ぶ実践的な講座内容となり、塾生の満足度も高い結果となった。また、構築された塾生間のネットワークを活用しながら、塾生有志による自主的な地域活動が活発に行われ、ひいては同窓会も設立することができた。

塾生により学習内容の深まり方や企画力等に差が出ることもあるので、悩んでいる塾生に対して、フォローアップの時間やその方法を今後検討する必要がある。また、同窓会を県内の地域活動の活性化という社会的ミッションを共有した組織に発展させ、継続した県内の地域活動に資するため、同窓会へのサポート体制を構築する必要がある。

公民館パワーアップ講座

【事業目的及び概要】

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化するため、公民館の運営に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等についての研修を行い、公民館関係職員相互の連携を図る事業である。

【事業内容及び結果】

○対象：公民館・市民センター職員、教育委員会職員、社会教育委員等

○場所：県総合社会教育センター

	期日	参加者数	内容
第1回	6/1(木)	33名	【講義】「公民館運営の現状とこれから ～地域の教育力向上のために公民館ができること～」 講師 青森公立大学 教授 内海 隆 【パネルトーク】 「私の公民館運営のポイント～他団体との連携を通して～」

	期 日	参加者数	内 容
			コーディネーター 青森公立大学 教授 内海 隆 パネリスト 東北町中央公民館 館長補佐 桜井 文雄 外ヶ浜町中央公民館 主幹 石岡 大
第2回	9/11(月)	18名	【演習】「ファシリテーション能力を高めよう」
第3回	11/2(木)	28名	【講義】「マルチステークホルダーとの協働」 講師：シナプテック株式会社 代表取締役 やまなしの翼プロジェクト 代表 戸田 達昭
第4回	2/8(木)	69名	【事例発表】「私のオススメ事業」 コーディネーター 弘前学院大学 准教授 生島 美和 ①地域探訪！再発見！地域マップづくり 青森市北部地区農村環境改善センター 業務員 吉田 秀子 ②ハートネットを作ろう！“ちょっと気になる子”への支援事業 五所川原市中央公民館 主事 斎藤 俊宏 ③キッズワールド 弘前市立中央公民館 主査 大高 堅彦 ④すこやかキッズ 黒石市中郷公民館 主任事務員 工藤 彩夏 ⑤青年学級 八戸市立根城公民館 非常勤館長 新井山 雅行 非常勤主事 野田口 麻衣子

※ 第3回は「生涯学習・社会教育関係職員研修講座 実務研修 社会教育編 第3回」との共催
【成果と課題】

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化するため、歴史的な経緯や社会情勢の変化から見られる公民館の役割の変遷や今後期待される公民館の在り方などとともに、事業について、企画立案に向けた手法や具体的な事例などを学ぶ研修を実施した。アンケートの結果から、受講者が実践的に活用できるとの評価が得られ、満足度も高かった。また、受講者同士の意見交換が活発になされ、悩みなどの解決のヒントとすることができた。

公民館機能の活性化に向けて、受講者のニーズを的確に把握し、より実効性の高い研修を進める必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 700千円

【事業目的及び概要】

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 新任職員研修

- 期日：5/18(木) ○場所：県総合社会教育センター ○受講者数：36名
- 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係新任職員や関係団体等の新任職員等
- 内容

- ・県社会教育行政の方針と重点
- ・生涯学習・社会教育の基礎知識
- ・関係機関と連携した実践から 講師：県立青森南高等学校 教諭 秋田 敏博
- ・市町村の生涯学習・社会教育事業に係る情報交換 ～あのみち・このまち・どんなまち？～

(2) 実務研修(センター会場)

- 場所：県総合社会教育センター
- 対象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等

【社会教育編】

回数	期 日	受講者数	内 容
第1回	8/9(水)	31名	子どもの心の発達について 弘前大学大学院医学研究科附属 子どものこころの発達研究センター 特任准教授 栗林 理人

回数	期日	受講者数	内容
第2回	10/31(火)	22名	住民が直接関わるまちづくりの実践 青森県会計管理者 神 重則
第3回	11/2(木)	28名	マルチステークホルダーとの協働 シナプテック株式会社 代表取締役社長 戸田 達昭

※第3回は「第3回公民館パワーアップ講座」と合同開催。

【実践テクニック編】

回数	期日	受講者数	内容
第1回	6/15(木)	21名	事業展開の実践・計画づくりの基本 ブラキオデザイン 代表 小野 康一郎
第2回	7/6(木)	20名	チラシづくりの基本(初級編) 青森ビジネス専門学校 校長 有馬 昭彦
第3回	7/20(木)	19名	チラシづくりの応用(上級編) 青森ビジネス専門学校 校長 有馬 昭彦

(3) 実務研修(各地区会場)

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

《東青地区》

○期日：7/12(水) ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：20名

○内容：これからの学校支援活動 青森市教育委員会社会教育課、県教育庁生涯学習課
青森市内学校支援コーディネーター(2名)
県立郷土館職員

《西北地区》

○期日：9/4(月) ○場所：中泊町総合文化センターパルナス ○参加者数：21名

○内容：まちづくり～人口減少にどうアプローチするか
弘前大学大学院地域社会研究科准教授 平井 太郎

《中南地区》

○期日：6/22(木) ○場所：黒石市産業会館 ○参加者数：52名

○内容：命の尊さと教育の大切さを考える
ルワンダの教育を考える会理事長 永遠瑠・マリールイズ

《上北地区》

○期日：5/25(木) ○場所：七戸中央公民館 ○参加者数：66名

○内容：川代ブランド確立で心温まる地域へ 新郷村川代地区振興会 顧問 小笠原 敏彦
地域課題に向き合った社会教育活動 岩手大学名誉教授 新妻 二男

《下北地区》

○期日：5/26(金) ○場所：むつ合同庁舎 ○参加者数：30名

○内容：地域コミュニティと地域の教育力向上 岩手大学名誉教授 新妻 二男
地域活性化に取り組む実践活動 むつ市まちづくりコーディネーター 桜田 真佐

《三八地区》

○期日：8/29(火) ○場所：八戸市福祉公民館 ○参加者数：21名

○内容：公民館講座等について、学習成果を発揮させるための方策
弘前大学大学院地域社会研究科准教授 土井 良浩

[成果と課題]

全13講座のアンケート結果から、受講者の満足度は99.8%と高く、実務に直結できるテーマと内容にした成果と考えられる。また、実態と照らし合わせながら、研修講座の実施内容や方向性について講師との事前打合せを綿密にできたことも結果につながった。今後は、受講者が研修の成果をどのように活用しているのかアウトカムの観点を重視しながら、系統性をより明確にした事業評価を意識して進める必要がある。

(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

- ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 573 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

〔事業内容及び結果〕

学校名	期間	日数	内 容	受講者数 (延数)
県立盲学校	7 月	2 日	点字入門と視覚障害者歩行援助	10 名(14 名)
八戸盲学校	8～9 月	6 日	点字・点訳・歩行体験・視覚障害者の進路・福祉情報	2 名(10 名)
青森聾学校	6～9 月	7 日	手話講座	25 名(143 名)

〔成果と課題〕

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に、特別支援学校のみで講座を開講している。受講者のアンケートによれば、「これからも続けてほしい」「点字を学ぶことによって今まで知らなかったことなどたくさん知ることができた。また、障害者の声を直接聞くことができた」など、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応できている。

一方で、講座開設校がある地区に限られているため、県内各地域で県民の学習ニーズにこたえられるよう、未開催地区での講座開設が課題である。

総合社会教育センター

元気青森人を創造する e ラーニング推進事業 914 千円

〔事業目的及び概要〕

自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習を、県民の誰もがいつでもどこでも手軽にできることを目的として、インターネットによる講座の配信を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

インターネットによる学習教材の配信(e ラーニング)

- (1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ 計 125 本(アクセス件数: 3,343 件)
公開講座 8 本、ワンポイントアドバイス 16 本、はたらく心 94 本
関係機関リンク 7 件
- (2) あおもり学インターネット講座 計 43 本(アクセス件数: 1,105 件)
あおもりの自然 9 本、我がふるさとあおもり 10 本、あおもり学特別講座 23 本
青森県の先人 1 本
- (3) あおもり子育てネット 計 151 本(アクセス件数: 23,766 件)
家庭教育支援コンテンツ 50 本、家庭教育支援啓発教材 5 本、家庭教育支援者向け動画 13 本
センター企画テレビ「あおもり子育てつながりんく」8 本、センター企画テレビ放送番組 20 本
公開講座 2 本、子育てワンポイントアドバイス 10 本、子育て得情報 30 本、学習コーナー 13 本

〔成果と課題〕

e ラーニングコンテンツは年間を通じて定期的に利用されている。今後は、利用者の利便性をより高めるため、タブレット端末やスマートフォン等でも閲覧しやすくなるようにページ管理する必要がある。

学習情報の収集・提供事業 7,219 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	2,068 件
	団体・サークル情報	1,414 件
	指導者人材情報	1,088 件
	視聴覚教材情報	20,326 件
	計	24,896 件
・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	4,692 回
	団体・サークル情報	1,523 回
	指導者人材情報	1,792 回
	視聴覚教材情報	1,196 回
	全情報	901 回
	計	10,104 回
・ありすネット検索回数	学習機会情報	1,367 回
	団体・サークル情報	465 回
	指導者人材情報	809 回
	視聴覚教材情報	1,618 回
	全情報	400 回
	計	4,659 回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等を維持管理する。

〔成果と課題〕

例年同様、学習機会情報や視聴覚教材の検索が多く行われている。しかし、Web 経由での情報登録件数が低いことから、利用者側の情報登録方法を簡易にするなど、システムを改善していく必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 527 千円

〔事業目的及び概要〕

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 39 本

〔成果と課題〕

16mm フィルムの整理・清掃等を中心として事業を展開した。県内でもフィルムの上映会を開いている市町村があり、貴重な映像資料であるフィルムの活用について更に検討が必要である。

あおもり県民カレッジ運営業務

〔事業目的及び概要〕

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化
 - ・連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。
連携機関数：712 機関(体験施設 147 か所を含む)
 - ・訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。
 - ・講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。

- イ 生涯学習支援のネットワーク構築
- ウ 事務局の運営(県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務)
 あおもり県民カレッジ学生数 22,177名(新規1,493名)
 [教養学習コース 17,556名(新規1,105名)]
 [子どもカレッジコース 4,621名(新規373名)] [うちジュニアコース4,228名(新規368名)]
- (2) 普及啓発事業
- ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)
 ・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集
 ・幼稚園、保育所、小学校、老人ホーム、団体への訪問
 ・連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集
- イ 生涯学習フェア2017の開催
 ○期日：10/1(日) ○場所：県総合社会教育センター
 ○内容
 ・オープニング
 ・大学生(高大連携キャリアサポート推進事業参加大学)によるキャンパスライフ紹介
 ・あおもり県民カレッジ認定証交付式
 ・黒田剛氏スペシャルトークショー「勝ち続ける組織の作り方」
 ・あおもり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
 ・我が社は学校教育サポーター登録企業等による出前授業・実演
 出前授業実践企業 一般社団法人青森市薬剤師会、青森朝日放送株式会社、青森警察署、
 青森県金融広報委員会
 ・館内冒険スタンプラリー 入場者数 1,379名
- ウ 生涯学習HPの作成
 ・生涯学習情報サイト<alisinfo.jp>作成及び随時更新
 ・連携機関の講座情報の更新
 ・地域キャンパス講座の情報ページの運用
 ・「講座アーカイブ」を開設し、講座の様子をYouTubeに公開 配信数：32コンテンツ
- (3) 学習情報提供・学習相談事業
- ア 学習機会情報の収集及び提供
 ・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼、連携機関等訪問による講座情報の調査収集
- イ 活動機会情報の収集及び提供
 ・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供
- ウ 学習相談の実施
 ・窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付 相談数 468件
- エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行(年6回)
- (4) 学習機会提供事業
- ア 地域キャンパス講座(県内6地区)開催
 開催数 東青10回、中南7回、三八10回、西北18回、上北8回、下北8回
 受講者数 のべ4,096名
- イ ボランティア活用支援
 ・ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催
 講師登録数：87名 講座数：140講座 のべ 1,067名
- ウ 専門講座の開催
- エ 「カダイ」は「マナビ」のチャンス！YOU遊トライアル運営
- (5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業
- ア 認定証・奨励証の交付
 認定証交付数 <教養学習コース>545名 <子どもカレッジコース>94名
- イ ボランティア証明書の発行

[成果と課題]

学生数の増加は、教養学習コースについては高校生スキルアッププログラム推進事業とのタイアップや、幼稚園、保育園を対象とした出前教室の実施による子どもカレッジ入学に依るところが大きい。また、単位認定対象として県内の図書館貸出本による読書活動を加えたことで、小学生の入学が増加して

いる。連携機関は、前年度比で19機関増加(純増)した。

一方で、各連携機関と協力し、単位認定申請数を増加につなげる学習システムを構築し、多様化する県民の学習ニーズに対応していく必要がある。

インフォメーションプラザありすの運営

〔事業目的及び概要〕

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービス、図書資料等の閲覧サービス等の業務を行う。

〔事業内容及び結果〕

窓口対応、社会参加活動の事例紹介とマッチング、社会参加活動支援センターの運営、視聴覚教材貸出サービス、ポスター・チラシ・図書資料等の展示

〔成果と課題〕

学習スペースの利用が定着し、特に学校の試験前などは多くの学生の姿が見られ、また、打ち合わせなどで利用できることも利用者に周知され、話し声が聞こえることへの苦情も無い。空き研修室を利用した自主学习室を含め、目的に合った利用状況が定着してきたと言える。連携機関やカレッジ学生による成果発表の場として、ありす内に展示スペースを設けたことで、利用者の交流のスペースにもなっている。引き続き、快適な学習環境の整備に努めることが、総合社会教育センターの活性化に寄与するものと考えている。

チャレンジ先生の手作り講座

〔事業目的及び概要〕

誰もが「講師」に挑戦できる仕組みを構築することで県民の社会参加活動を推進するとともに、受講生と講師の「学び合いの場」を作ることによって、多様で質の高い学習機会を創出する。運営については市場原理を導入して活性化を図る。

〔事業内容及び結果〕

(1) 講師は公募し、面談後決定。講師の資質向上のための研修会の実施。

(2) 講座について

- ・実施においては、回数、募集定員、受講料について様々な設定をし、講師自身が選択して行う。
- ・講座の開催は、7・8月期、11・12月期、12月期の3期とする。
- ・最少開講人数を設定し、一定の基準を満たす応募があった場合に開講する。
- ・受講料を徴収し、これによって運営費を賄うこととする。

〔成果と課題〕

28年度を受講者アンケートの結果から、講座運営を見直し、少人数制の良さを生かす観点から定員を低く設定したことから、開講条件となる最少開講人数(上限の3割)が下がり、講座の開講率が上がる結果となった。学び合いの場であること、受講生と講師が共に支える事業であることを、十分に理解してもらえたという手応えがあった。

	企画講座数	開講講座数	延べ参加者数	開講率
7・8月期	9	7	106	78%
11・12月期	7	4	85	57%
12月期	6	6	128	100%
合計	22	17	319	77%

ボランティア活動支援機関連絡会議

〔事業目的及び概要〕

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

あおもり県民カレッジの連携機関は、県民に広く講座を実施している機関・団体等で構成されており、学習ボランティアという視点からボランティア活動支援に関する議題について意見交換した。

地区	期日	開催場所	参加団体数	参加者数
東青	5/ 1(月)	県総合社会教育センター	41	43

西北	5/29(月)	エルム文化センター	9	9
中南	4/28(金)	弘前市総合学習センター	8	12
上北	5/12(金)	鷹山宇一記念美術館	9	9
下北	4/14(金)	むつ市立図書館	6	8
三八	5/26(金)	八戸市総合福祉会館	14	17

[成果と課題]

ボランティア活動支援に関する現実的な悩みや疑問点を共有し、団体相互でアドバイスをするなど、一定の成果があった。また、高校生スキルアッププログラム推進事業の周知を行うことで、団体側から高校への情報発信を促進することができた。今後は、情報交換にとどまらず、地域を横断したネットワークの構築等についても話し合う場にしていく必要がある。

県立図書館

近代文学館 特別展開催

[事業目的及び概要]

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 「西善蔵生誕 130 年特別展」

○会期：7/8(土)～9/18(月) ○来場者数：4,359 名

○内容：貧困と病の中で身を削るようにして作品を書き、私小説・心境小説の第一人者として注目された西善蔵(現弘前市出身)の生誕 130 年という節目に当たり、その文学の奥深さに迫る展示を開催。

○展示資料数：170 点(遺品 12 点、書画 18 点、原稿 5 点、自筆資料 2 点、書簡 9 点、図書 84 点、雑誌 33 点、印刷物 7 点)

(2) 文学講座 1—善蔵忌記念・朗読と講演—

○期日：7/23(日) ○場所：県総合社会教育センター大研修室 ○来場者数：102 名

○内容：朗読「西善蔵の現実とロマンを読む」 講師 川口 浩一(フリーアナウンサー)
講演「西善蔵 津軽人が駆け抜けた夢」 講師 鎌田 慧(作家)

(3) 文学講座 2—映像と講演—

○期日：8/20(日) ○場所：県総合社会教育センター大研修室 ○来場者数：87 名

○内容：文学ビデオ「一字一拝 西善蔵の生涯」
講演「孤高の私小説作家・西善蔵の文学—「哀しき父」を中心に」
講師 伊藤 博(早稲田大学/法政大学非常勤講師)

(4) 日曜講座

○期日：9/3(日) ○場所：県立図書館研修室 ○来場者数：23 名

○内容：講演「西善蔵生誕一三〇年目の新資料・新事実」
講師 竹浪 直人(県近代文学館文学専門主査)

[成果と課題]

かねてから存在が知られている資料では「白根山雲の海原夕焼けて妻し思へば胸いたむなり」ほか直筆の書幅 7 点を、新資料では「父の葬式」「東北の原野を夜汽車で過ぎる時など」「血を吐く」の直筆原稿 3 点を、遺族の方と日本近代文学館の協力により展示することができた。図書・雑誌では、『子をつけて』をはじめ生前の全著作初版本のほか、作品掲載誌や〈葛西善蔵に魅せられた人々〉の著書を多数展示。解説パネルの部分では、長部日出雄・鎌田慧・伊藤博の三氏から寄稿を得ることができ、鎌田・伊藤の二氏は文学講座の講師も務めてくださった。様々な角度から葛西善蔵の文学の魅力に迫るとともに、その反響は大正期にとどまらず今日まで続いているということも多くの方に紹介できた。

展示・講座いずれにおいても、長年の愛読者にも喜んでもらえるような見応えのある企画と、予備知識のない方も入り込めるような親しみやすい企画の両立を図ることが引き続き課題である。

近代文学館 企画展開催

[事業目的及び概要]

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・

公開する企画展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 「没後 80 年・菊谷栄展」

○会期：10/28（土）～1/14（日） ○場所：近代文学館企画展示室 ○来場者数：2,668 名

○内容：1902（明治 35）年青森県東津軽郡油川村（現青森市）に生まれ、エノケンの座付き作家として活躍した菊谷栄は、1937（昭和 12）年に中国で戦死。その業績を紹介する展示を開催。

○展示資料数：252 点（書簡 3 点、草稿 69 点、台本 46 点、書画 57 点、スクラップブック 1 点、新聞 9 点、印刷物 29 点、写真 27 点、視聴覚資料 1 点、雑誌 5 点、図書 4 点、レリーフ 1 点）

(2) 「本の装い」展

○会期：2/24（土）～5/20（日） ○場所：近代文学館企画展示室 ○来場者数：1,768 名（3/31 まで）

○内容：昭和初期の青森県の版画家たちの流れをたどり、棟方志功、関野準一郎、佐藤米次郎、蘭繁之の装丁本や阿部合成作『壁の花』の表紙絵原画、佐野ぬい作『北畠八穂児童文学全集』表紙原画、村上善男の装丁本などを展示。

○展示資料数：697 点

[成果と課題]

「没後 80 年・菊谷栄展」において、ご遺族からお借りして展示した菊谷栄遺品中の台本・原稿の多くは、研究者にも知られていない貴重資料であった。今後の軽演劇研究また菊谷栄研究に大いに資する展示となった。通常よりもメディアで紹介される機会を得たことから、多くの演劇人にリスペクトされ、伝説の劇作家と称される菊谷栄について広く知ってもらうことができた。

「本の装い」展では、青森県ゆかりの版画家や画家たちが装丁に携わった本を展示した。県立郷土館と連携して青森県の版画家について紹介するコーナーを設けた。美しい装丁本の展示を軸としつつ、文学館の個性を活かして装丁者の思いや著者とのエピソードを紹介している。文学館に来たことがない方にも興味を持ってもらえるよう、ポスターのデザイン・展示構成・レイアウトを工夫した。

分かりやすい展示構成、解説を心掛けることはもちろんだが、展示の観覧によって得た興味を更に広げてもらおうための工夫が課題である。

アウトリーチサービス推進事業

[事業目的及び概要]

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

○登録者数：31 名（うち新規登録者数 3 名） ○貸出：件数 128 件／冊数 533 点

[成果と課題]

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。課題としては、利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことがあげられる。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,173千円

[事業目的及び概要]

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

[事業内容及び結果]

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめた。

(2) 青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(H28/8/21～H30/8/20)

○審議テーマ：「あおもりで若者が集い、生き生きと活躍できる持続可能な地域社会づくり」

○会議等の概要

第3回審議会 6/8(木) 本県における若年層の意識・現状、審議テーマに関連する先進事例
実地調査先について

第4回審議会 10/12(木) 若者が中心となった地域づくり活動、先進事例実地調査に係る調査
項目について

先進事例実地調査 ・愛知県新城市「若者議会」 10/19(木)～20(金)

・宮城県気仙沼市「特定非営利活動法人 底上げ」 10/30(月)

・宮城県石巻市「特定非営利活動法人 かぎかつこ PROJECT」 10/31(火)
「一般社団法人 Ishinomaki20」

・東京都渋谷区「シブヤ大学」 12/15(金)～16(土)

第5回審議会 3/27(火) 先進事例視察の報告、報告書の骨子について

[成果と課題]

若者が中心となって活動する取組について、県内外の先進事例実地調査を行い、その結果に基づいて若者が集うための環境づくりや若者が生き生きと活躍できる体制づくり等、本県の目指すべき方向性について議論を深めることができた。これを踏まえ、今後は引き続き報告書の成案について審議いただき、報告書を教育長に提出する予定である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,143千円

[事業目的及び概要]

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育推進に関する調査・研究を行う事業である。

[事業内容及び結果]

今年度は、郷土を愛する心に関する県民の意識や行動について、一般県民3,000人を対象に調査を行った。

○調査テーマ：「郷土を愛する心に関する県民の意識調査」

○調査対象：一般県民3,000人

○有効回答：1,262人(42.07%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、調査研究顧問を委嘱した。

青森大学社会学部 教授 柏谷 至

○報告書：100部を印刷し、関係機関へ配付した。

〔成果と課題〕

今回の調査では、「郷土を愛する心」が、「子どもの頃の家族の愛情や絆」、「現在の自己肯定感」、「豊かな人間関係」と相関関係があることがわかった。家族や友人という私的で親密な関係性やコミュニティにおいて役割や居場所があるということが「郷土を愛する心」の育成に大きな意味をもつことが検証された。

今後は、家庭教育支援とともに、学校・家庭・地域で多様な経験をつくることのできるよう調査研究の成果を生涯学習関連施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の運営 730千円

〔事業目的及び概要〕

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第15条に基づき青森県社会教育委員を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行うことを目的として、青森県社会教育委員の会議を運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

第33期青森県社会教育委員

○委員：12名（うち、専門部会委員4名）

○任期：2年（H28/10/19～H30/10/18）

○調査研究テーマ

「人口減少下における地域コミュニティ形成のための行政と民間の新たな連携・協働の在り方」

○青森県社会教育委員の会議の概要

第1回専門部会 5/16(火) 調査研究の具体的なエリア、内容、方法などについて

第2回専門部会 6/21(水) 予備調査の結果について、調査研究の具体的なエリア、内容、方法などについて

第3回全体会 7/12(水) 調査研究の具体的な内容・方法について、調査スケジュールについて

実地調査 8月下旬～10月上旬

第3回専門部会 2/14(水) 実地調査結果の分析、実地調査研究報告書の骨子について

第4回全体会 2/26(月) 実地調査結果の分析、実地調査研究報告書の骨子について

〔成果と課題〕

本県社会教育の振興方策に資するため、エリアの核となる団体とその関わりのある団体同士がエリア内でどのような連携・協働体制を図っているかを把握するため、県内3エリア（浅虫、大館、十和田）への実施調査を実施、調査研究報告書作成に向け、調査結果の精査や調査研究報告書について活発な協議、意見交換がなされた。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県社会教育行政」の作成 262千円

〔事業目的及び概要〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 市町村の社会教育行政調査

(2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

(3) 「平成29年度青森県社会教育行政」の作成配付(600部作成予定)

〔成果と課題〕

「青森県社会教育行政」の作成にあたっては、体裁や文章表現に注意をして、社会教育行政関係者が見やすく、利用しやすいように編集・校正を行った。

社会教育主事有資格者育成派遣事業

〔事業目的及び概要〕

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等

の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 社会教育主事講習(国立大学法人岩手大学)への派遣
研修期間：7/18(火)～8/10(木) ※7/18(火)～7/21(金)は宿泊研修(国立岩手山青少年交流の家)
派遣者数：教育事務所主任指導主事1名、小学校教員1名、中学校教員1名
- (2) 社会教育主事講習[B](国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣
研修期間：1/22(月)～2/28(水)
派遣者数：県総合社会教育センター指導主事1名

〔成果と課題〕

三八教育事務所の主任指導主事が岩手大学での社会教育主事講習を修了し、10/1付けで主任社会教育主事に発令された。

また、上北地区の小学校教員1名及び東青地区の中学校教員1名が社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育主事体制の充実を図っていく。

社会教育主事派遣事業

〔事業目的及び概要〕

町村等の社会教育行政及び社会教育指導体制の充実を図ることを目的として、社会教育主事の資格を有する学校職員を町村等教育委員会に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

派遣先：上北地方教育・福祉事務組合 派遣者数：1名

〔成果と課題〕

派遣社会教育主事と事務組合任用の社会教育主事及び社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たり、社会教育指導体制の充実が図られている。

生涯学習専門講座派遣事業 182 千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習の進行に置いて中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 派遣先：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- 講座名：社会教育主事専門講座、地域教育力を高めるボランティアセミナー
- 派遣者数：各1名

〔成果と課題〕

派遣社会教育主事と事務組合任用の社会教育主事及び社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たり、社会教育指導体制の充実が図られている。

社会教育主事等一般研修 154 千円

〔事業目的及び概要〕

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

〔事業内容及び結果〕

研修会の開催 年2回

〔成果と課題〕

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、今後の業務に役立てることができた。講座は、演習や事例研究が多く認定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見を得る必要がある。

在学青少年育成費補助事業

〔事業目的及び概要〕

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、東京青森県人会、青森県高等学校長協会が行う県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師を県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
10/11(水)	県立鱒ヶ沢高等学校	134名	演題：「ミクロの世界からのメッセージ」 講師：千葉大学グランドフェロー 名誉教授 野田 公俊
	県立黒石高等学校	477名	
10/19(木)	県立八戸北高等学校	720名	演題：「グローバル社会で活躍するには －新体操の審判員を通して－」 講師：日本女子体育大学 学長 石崎 朔子
	県立五戸高等学校	184名	
10/20(金)	青森山田高等学校	986名	演題：「青森からアメリカとカンボジアへ －世界で生きるこれからの私たち」 講師：アカデミック・リソースガイド(株) リレーションズ・ストラテジスト 鎌倉 幸子
	県立青森工業高等学校	728名	

[成果と課題]

講師が県内出身者であり、高校生にとっては、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどキャリア教育の一環として有益な講演会であり、今後も引き続き助成を継続したい。

市町村の社会教育活性化支援事業(再掲) 1,130千円

(P94 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

青森県連合青年団活動費補助事業 0千円

※平成29年3月、青森県連合青年団より、平成29年度から当面の間活動を休止するとの通知があったことから、同団体への補助は実施しなかった。

総合社会教育センター

ボランティア関係職員ネットワーク形成セミナー 213千円

[事業目的及び概要]

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

- 《青森地区》1/16(火) 県総合社会教育センター 参加者 14名
- 《八戸地区》1/23(火) 八戸市視聴覚センター児童科学館 参加者 19名
- 《弘前地区》1/26(金) 弘前市民会館 参加者 22名

○内容

- 講義 「ボランティア活動の活性化を目指して～地域課題克服のためのネットワークづくり～」
講師 八戸学院大学短期大学部 准教授 小川 あゆみ
- 事例発表 (青森地区)六戸社会福祉協議会 主任 十文字 朋人
(八戸地区)NPO法人子どもネットワークすてっぷ 副代表理事 野呂 美奈子
(弘前地区)NPO法人なんぶねっと 代表 四戸 泰明

演習・情報交換

[成果と課題]

ボランティアに関わる様々な関係職員等が、研修及び情報交換会を通してネットワークの強化を図ることができた。

今後は関係職員のみならず、ボランティアに関わる関係者の資質の向上及び更なるネットワークの構築を図るために、関係機関への事業説明を行いながら、事業周知を行う必要がある。

公民館パワーアップ講座(再掲)

(P96 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲) 700千円

(P97 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 受入資料数(29/4/1～30/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	17,912冊
市町村等協力用	4,875冊
近代文学館	2,355冊
合計	25,142冊

(2) 図書館利用状況(29/4/1～30/3/31)

図書館利用者数		306,327名	
近代文学館利用者数		70,080名	
年間利用資料数	一般閲覧室	150,190冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	48,619冊	
	オンライン貸出	6,029冊	
	新聞未合冊等	7,131冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(533冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	39,766冊	
	計	251,735冊	
年間登録者数	新規登録者数	3,321名	※うち、アウトリーチ総登録者 数を含む。
	総登録者数	22,935名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況(29/4/1～30/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	5,140冊
	県外公共図書館等	686冊
	計	5,826冊
団体一括貸出		25,836冊
集団読書用図書		195冊

市町村立図書館等職員研修事業

[事業目的及び概要]

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、初任者研修、実務研修、テーマ別研修及び提案型研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 青森県立図書館事業等担当者会議

- 期日：5/11(木) ○場所：県立図書館 ○参加者：市町村立図書館等職員 40名
- 内容：青森県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明

(2) 初任者研修①

- 期日：5/24(水) ○場所：県立図書館
- 対象：勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
- 参加者：市町村立図書館等職員 29名、学校図書館業務担当職員 15名
- 内容：一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修「図書館サービス概論等の講義」

(3) 初任者研修②

○期日：6/22(木) ○場所：県立図書館

○対象：勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員

○参加者：市町村立図書館等職員36名、学校図書館業務担当職員6名

○内容：一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修「資料管理、児童サービスに関する講義」

(4) テーマ別研修

○期日：6/8(木) ○場所：県立図書館

○対象：市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長を含む)及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者

○参加者：市町村立図書館等職員37名、学校図書館業務担当職員7名

○内容：図書館で調べるレファレンスの基本サービスを見せていく図書館員の役割

講師 千葉経済大学総合図書館館長、千葉経済大学短期大学部教授 齊藤 誠一

(5) 実務研修

○期日：11/20(月) ○場所：県立図書館

○対象：市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長を含む)及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者

○参加者：市町村立図書館等職員18名、学校図書館業務担当職員1名

○内容：テーマ「味方づくりの取り組みを計画するー利用者セグメント細分化の視点からー」

講師 図書館サービス計画研究所 代表 仁上 幸治

(6) 提案型研修

○期日：9/25(月) ○場所：五所川原市立図書館

○対象：青森県内図書館・公民館等のすべての職員

○参加者：市町村立図書館等職員28名

○内容：テーマ「教えて！スーパー司書ぶーさん！～つながろう図書館員 海を越えて北海道と青森で～」 講師 北海道立図書館総務企画部企画支援課 主査 海藤 久仁子

[成果と課題]

青森県立図書館事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等との連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

テーマ別研修では、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマを取り上げて実施していくことで、図書館職員に必要である継続的な研修受講の機会を設定することができた。

実務研修では、市町村立図書館等から要望のあったテーマを取り上げるにより、市町村立図書館等のサービスの質の向上や、各館における取組みの見直し等、利用者サービスの向上に繋がった。

提案型研修では、各市町村立図書館、公民館等からの提案で研修を実施することにより、図書館職員の意識、知識、技能及び意欲の発展・向上、図書館等の振興、図書館活動の活性化に繋がった。

いずれの研修等も、各市町村立図書館等の職員のニーズを踏まえた研修内容の提供とよりわかりやすい説明、意見交換の場として活用していくことが今後さらに必要である。